

# チリ教育テレビプロジェクト アフターケア調査団報告書

平成5年9月

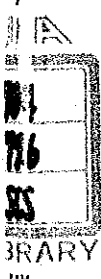
国際協力事業団  
社会開発協力部

社協二
JR
93-059

チリ教育テレビプロジェクトアフターケア調査団報告書

平成5年9月

国際協力





JICA LIBRARY



1113060161



チリ教育テレビプロジェクト  
アフターケア調査団報告書

平成5年9月

国際協力事業団  
社会開発協力部

国際協力事業団

36305

## 序 文

チリ政府は、同国における教育テレビ放送の拡充と質的向上を図るため、わが国に対して技術協力を要請してきた。これを受けてわが国は、諸調査を行なった後、昭和63年(1988年)4月に実施協議調査団を派遣し、チリ政府関係者との間にR/D(討議議事録)署名を交わし、同年7月から3カ年にわたるプロジェクト方式技術協力が開始された。

本プロジェクトの内容は、チリ・カトリック大学の教育番組制作部門(TELEDUC)に対する番組編成・製作、製作技術、コンピュータ・グラフィックス及び調査研究の4分野を柱とした技術協力で、平成3年6月に予定通り目標を達成して終了した。

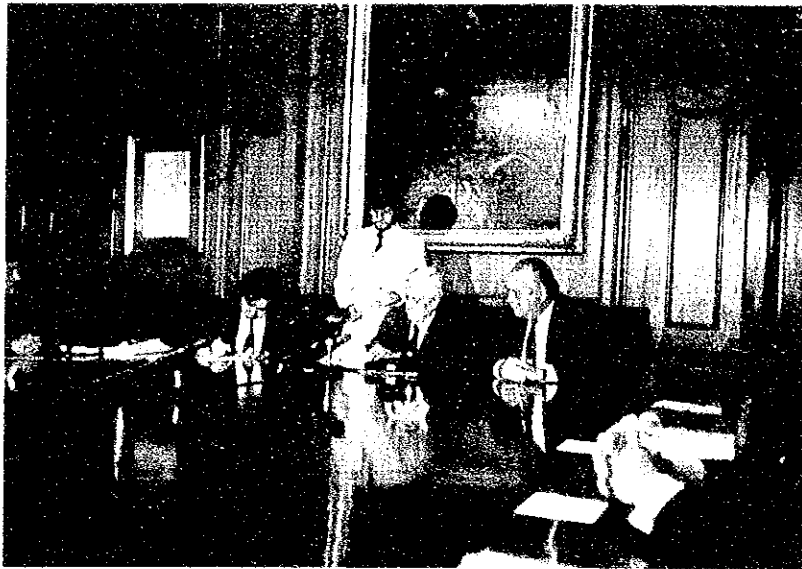
今回、プロジェクト終了後2カ年が経過したので、その後の活動状況を調査すると共にアフターケア協力の是非につき協議することを目的として、郵政省国際協力課山口国際協力調査官を団長とするアフターケア調査団を平成5年7月14日から27日までチリに派遣した。

本報告書は、同調査団の調査及び協議結果を取りまとめたものである。

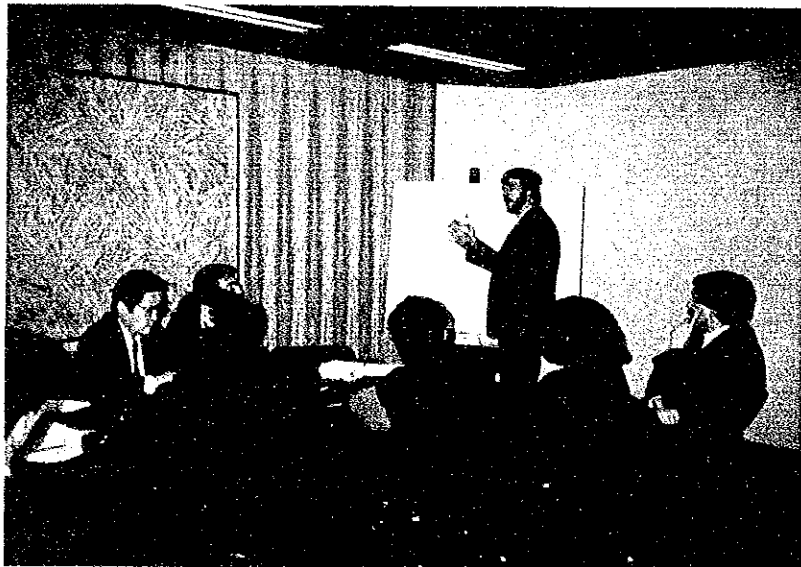
ここに、本調査の任に当たられた調査団の方々、及びご協力いただいた外務省、郵政省、日本放送協会、在チリ日本大使館、その他関係機関の方々に心から感謝の意を表するとともに、今後のご支援をお願いする次第である。

平成5年9月

国際協力事業団  
社会開発協力部長  
石 崎 光 夫



ミニッツ署名



TELEDUC・大学テレビ局関係者との協議



TELEDUC番組編集室



## 目 次

序 文

写 真

1. アフターケア調査団の派遣 .....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	1
1-3 調査日程 .....	2
1-4 主要面談者リスト .....	3
2. 調査・協議結果内容 .....	5
2-1 アフターケア協力の対処方針 .....	5
2-2 調査・協議の経緯 .....	11
2-3 教育テレビに対するチリ国の体制・組織と TELEDUC .....	13
2-4 TELEDUC の組織・機構の現状 .....	16
2-5 技術協力各分野の発展状況 .....	23
2-6 TELEDUC の将来計画とアフターケアの位置付け .....	39
2-7 供与機材の使用状況及び保守・管理状況 .....	42
3. アフターケア協力の基本計画 .....	47
3-1 機材供与計画 .....	47
3-2 短期専門家派遣計画 .....	48
3-3 研修員受け入れ計画 .....	48
附属資料 .....	49
① ミニッツ .....	51
② 事前質問票 .....	54
③ 質問票回答 .....	63
④ 調査団入手資料 .....	75
A. TELEDUC 説明パンフレット .....	77
B. チリ・カトリック大学テレビ局 (TVuc) 週間番組表 .....	89
C. TELEDUC 放送番組名 (1991、1992、1993) .....	90
D. TELEDUC テキスト .....	91



## 1. アフターケア調査団の派遣

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

チリ・教育テレビプロジェクトは、南米地域で実施された初めてのテレビ関係プロジェクトで、教育テレビ放送の拡充と質的向上を目的とした技術協力として1988年4月に署名されたR/D(討議議事録)に基づき3カ年の協力期間を以て開始し、1991年6月末日をもって成功裡に終了した。

内容はプロジェクト実施の主体であるチリ・カトリック大学の教育番組制作部門(以下TELEDUCと言う)が、同大学テレビ局の一定の時間帯を使用して教育テレビ番組を放送する活動である。教育番組内容の企画に関しては大学教授スタッフの支援を、番組制作・放送については同大学テレビ局(以下TVucと言う)の協力により運営を行っている。

本アフターケア調査団は、協力期間終了後2年におけるプロジェクトの現在の発展を質的・量的に調査し、問題点等を協議し解決を図るとともに、技術協力分野のアフターケア協力(機材供与等)の実施について、現地関係者と協議のうえその要点をミニッツにとりまとめる目的で派遣されたものである。

### 1-2 調査団の構成

No.	担当業務	氏名	現職
1	総括	山口 亮	郵政省国際協力課 国際協力調査官
2	制作技術	降旗 俊夫	日本放送協会技術局施設業務部 チーフエンジニア
3	教育番組制作	戸崎 賢二	日本放送協会学校放送番組部 チーフディレクター
4	協力企画	西脇 英隆	国際協力事業団社会開発協力部 社会開発協力第二課 課長代理
5	業務調整	田中 和子	国際協力事業団社会開発協力部 社会開発協力第二課 ジュニア専門員

1-3 調査日程

日程	月日	曜	行 程	調 査 内 容
1	7/14	水	Tokyo/Narita (JL-006) → N.Y./JFK	移動
2	15	木	(LA-149) → Santiago	午前：移動 午後：文部省表敬、国際協力庁表敬 日本大使館表敬
3	16	金	Santiago 郊外	教育テレビモニタリング校 エル・レマンソ、G-746小学校訪問
4	17	土	Santiago	資料整理・団内打ち合せ
5	18	日	Santiago	資料整理・団内打ち合せ
6	19	月	Santiago	チリ・カトリック大学テレビ局訪問 午前：テレビ局概要説明、局内施設設備見学 テレビ局主催昼食会 午後：技術協力分野の活動状況説明 C/G、制作技術 デジタル通信訓練センタープロジェクトの専門家との懇談会
7	20	火	Santiago	チリ・カトリック大学訪問 午前：TELEDUC 活動状況説明 大学主催昼食会 午後：TELEDUC 事務組織見学 活動状況説明
8	21	水	Santiago	チリ・カトリック大学訪問 午前：技術協力分野の活動状況説明 調査・研究 TELEDUC 地方支部の活動状況説明 大学テレビ局 午後：アフターケア協力に対する要望説明 ミニッツ案協議・作成
9	22	木	Santiago	チリ・カトリック大学訪問 ミニッツ署名 日本放送協会“日本賞・奨励賞”授与式
10	23	金	Santiago	午前：団内打ち合せ 午後：JICA 事務所報告 日本大使館報告 調査団主催カクテルパーティー
11	24	土	Santiago (CP-1015) →	移動
12	25	日	→ Toronto	〃
13	26	月	Toronto (CP-001) →	〃
14	27	火	→ Tokyo/Narita	〃

1-4 主要面談者リスト

- (1) 文部省 (Ministerio de Educación)  
文部次官 Sr. Juio Valladares Munoz
- (2) 国際協力庁 (Agencia de Cooperación Internacional, AGCI)  
計画部日本担当 Sr. Raul Varsara Meneses  
JICA 専門家 大場 三穂
- (3) チリ・カトリック大学 TELEDUC  
(Pontificia Universidad Católica de Chile/Dirección de Educación a Distancia)  
Oficina 14, Alameda 340, Avda. Berrardo Ohiggins, Santiago  
TEL : 222-4516  
局長 Sr. Rodrigo Jordan Fuchs  
文芸部長 Sr. Francisco J. Garces T.  
サンチャゴ支部長 Sr. Xavier Rivas Porter
- (4) チリ・カトリック大学 (Pontificia Universidad Católica de Chile)  
教授 (教育心理学) Sra. Maria Paulina Dominguez
- (5) チリ・カトリック大学テレビ局  
(Corporación de Televisión Universidad Católica de Chile/UCTV)  
Ines Matte, Urrejola 0848, Santiago TEL : 251-4000  
制作部長 Srta. Ruby Anne Gumpertz S.  
教育テレビ部長 Sr. Ricardo de la Fuente  
技術部長 Sr. Rafael Richard  
教育番組部長 Sr. Gabriel Bravo Lyon  
C/G担当 Sr. Renato Pacheco S.
- (6) モニタリング校  
Gamino La Puntilla, El Remanso, El Monte  
G-746 学校長 Sra. Ana Maria Beones Soto
- (7) 日本大使館  
参事官 柴田 進  
二等書記官 吉岡 真二
- (8) JICA 事務所  
所長 田臥 彰三  
次長 高橋 満之  
調査団通訳 Sra. Aurora Campusano T.



## 2. 調査・協議結果内容

### 2-1 アフターケア協力の対処方針

調査団の派遣に先だって、チリ・カトリック大学 TELEDUC の現状を把握するために、JICA チリ事務所を通して質問表（附属資料②）を送付し、同質問表に対する回答結果（附属資料③）を参考にアフターケア調査対処方針として表-1、2のようにまとめ、アフターケア協力に必要な項目を中心に調査・協議を行うこととした。







表-1 チリ教育テレビアフターケア調査団対処方針 1 (協力のための調査事項)

項目	評価 (1991.4) までの確認事項	質問表回答結果	調査確認事項	調査結果
1. 投入実績	プロジェクト期間 : 1988.7.1~1991.6.30 (3年間) 1. 供与機材: 約273,000千円 2. 研修員受け入れ: 8名 (予定12名) 3. 専門家派遣: 長期8名, 短期9名		1. プロジェクトに対する現在のチリ側の評価 2. 積み残し4名の日本研修 3. 今後の技術協力に期待する内容	1. 日本の技術協力を高く評価 2. 1991年度4名研修員受入 (合計12名) 3. アフターケア協力に対する要望・方針
2. 教育テレビ放送体制	1. 放送運営体制: TELEDUCは唯一の教育番組制作組織, TVUC(13ch)で放送 2. 教育省下のラジオ・テレビ審議会 (Consejo Nacional de Radio y Televisión) その他国営放送局、民放局が存在するが教育番組に本格的に取り組んではいない。	1. 体制に大きな変化はない 2. 教育省下のNational Television Council その他教育テレビに関する現状 TVUC以外の教育テレビ番組の放送2局 (Television Nacional, Megavisión) 子供向け番組、ドキュメンタリー等放送	1. 現在の状況 ・テレビ普及状況 (家庭・学校) ・チャンネル数、放送内容 2. 教員養成・研修内容と教育テレビとの関連 (教育制度、就学率など)、教育テレビ番組視聴者の対象	1. テレビ局の競走激化 ・家庭、学校においてカラー化、ケーブル化 ・国産番組と輸入番組 2. 成人・一般社会人教育の重視
3. 教育番組制作体制	プロジェクト中の実施組織・関連組織 1. チリ・カトリック大学 教育テレビ番組制作局 (TELEDUC) : プロジェクト実施体制 2. チリ・カトリック大学 (私立大学) 3. 同大学テレビ局 (TVUC、13チャンネル) 4. 教育省	1. 独自の運営組織であらゆる視聴者層に対応する教育番組制作に取り組んでいる。 2.3. 大学傘下の一組織として大学教授スタッフ、TVUCの両面から支援している。 4. 教育省の援助: 補助金支出 (約20%) 教員のための特別番組制作 (教員数45,000、生徒数1,500,000の視聴)	1. 教育番組制作の周辺状況 2. 関連組織の具体的な役割 3. 通信教育に対する教育省の援助体制	1. チリ国内で唯一の教育番組制作機関であり現在も活動体制には変更は特にない。 2. 他大学との地方支部を通じての国内組織網 大学各学部及びテレビ局の協力体制 3. 通信教育番組に対する関係組織制作援助 教員登録者に対する補助の打ち切り 他大学の通信教育及び大学数増加に伴う教育番組制作の方針明確化
4. 教育番組制作の活動状況	1. 組織、人員配置 (1991: 44名) 各部門担当職務 2. カウンターパート (以下C/Pという) の配置状況 3. 教育テレビ番組制作活動内容 4. 週間放送時間 (1989: 週380分放送) 5. 予算 6. 技術移転分野の活動・評価 7. 将来計画 ・放送時間の拡大 ・番組の質的向上 ・登録学生数の増大 ・教育番組制作チームの組織化 ・各種新番組の開発	1. 新組織編成、職員数 (1993: 51名) 2. 技術移転を受けたC/Pは数名退職したが、多くは現在も勤務して活躍している。 3. 教育番組の質的向上・発展の確認 (番組数・内容)、社会人向け番組の増加 4. 放送時間拡大の確認 (1週当たり4日計480分、1年間に7ヶ月放送) 5. 予算の拡大 6. 技術移転分野の発展の確認 : 制作チーム数3 : 登録学生数の増加	1. 組織の各部門の機能 16支部の活動内容 2. 元C/Pの配置状況、職務内容 3. 教育番組の視聴 4. 今年度TELEDUC放送番組表・内容 5. 予算の今後の展望 6. 技術移転分野の発展の確認 ・3制作チームの構成、活動 ・供与機材を有効利用した番組制作 ・調査・研究の結果を踏まえた番組制作内容 7. 将来計画	1. 1991年より新5ヶ年計画・組織の再編 各部門名称、機能 (特に地方支部の整備) 2. 職員52名の配置状況 3. 教育番組放送形態: (通信教育番組・一般教養啓蒙番組の2種) 小学校高学年~社会人全般、学校教員向け 通信教育番組の制度確認 4. 放送時間: 月~金 (9:15~10:15) 土・日 (9:15~10:30) (再放送を含む) 5. 予算 (独立採算) の拡大 6. 技術移転分野のプロジェクト終了以降の番組数、内容、対象視聴者 7. 時代に対応した教育番組構想
5. 供与機材の使用状況 保守管理状況	すべてが効果的に使用され教育番組の制作が進められている。	1. 供与機材の使用・保守管理状況: 良好 2. 希望供与機材 既供与機材の拡張または新規導入 (C/G、エディター) 及び16地方支部活動へのテレビ、パソコン、ファックス等	1. 供与機材の使用状況・保守管理状況確認、制作番組の視聴 2. アフターケア協力については方針2を参照	1. 使用・管理状態いずれも良好 2. チリ側の要望と調査内容をもとにアフターケア協力を協議、予算の範囲内で見積りを参考に方針を決定
6. その他			1. 他国との技術交換 2. 他国からの援助	1. 中米教育放送連盟を企画 ('93.7放送開始) 2. カナダ・ケベック大学教育番組技術援助



表-2 チリ教育テレビ：アフターケア調査団対処方針 2 (機材・短期専門家・研修員)

項目	クエスチョネアの回答	対処方針	調査結果
1. 供与機材	<p>技術協力分野</p> <p>1. Computer Generated Television Images</p> <p>2. Educational Television Program Planning and Production</p> <p>に関連した</p> <p>A. 既供与機材のスペアパーツまたは新規導入C/Gシステムの拡張 デジタル編集</p> <p>B. 既供与機材が修理不可能のための代替品なし</p> <p>C. 新規導入機材 16 地方支部に パーソナルコンピュータ (2)、プリンター、テレビ、VTR、ファックス</p>	<p>1. 協力期間は1994年4月1日より約1カ年</p> <p>2. 協力期間が1年間であることから、事前質問表に対する回答を踏まえ、供与機材の具体的な機種、仕様について事前に詰める。</p> <p>3. 供与機材の選定にあたっては、プロジェクトの協力内容を中心に今後の教育テレビの発展に資する者であることを考慮する。</p> <p>4. 現地においてプロジェクトの発展状況と供与機材の仕様状況、保守・管理等を調査して協議を行なう。</p> <p>5. チリ側要望とアフターケア方針をあわせて検討し予算の範囲内で対応する。(約3,000万円)</p> <p>6. その他</p>	<p>1. アフターケア協力のスキームについて説明し、予算の範囲内の具体的な機種の選定を調査</p> <p>2. 特に技術革新の著しいコンピューター関連分野でのグレードアップに対する要望を満たすものとする。</p> <p>3. 新規導入機材として新たに設置された地方支部の活動に必要な内容が要請されたがプロジェクト中の技術協力分野外であるため協力対象としない。</p> <p>4. 最終希望供与機材 (プライオリティ)</p> <p>(1) 編集システムのスペアパーツ各種 \$ 29.042</p> <p>(2) C/Gシステムの機能向上一式 \$ 98.013</p> <p>(3) 編集システムの機能向上一式 \$ 135.780</p> <p>見積り合計 \$ 262.835</p> <p>(全て現地調達可能)</p>
2. 短期専門家派遣		<p>1. 協力期間は1994年4月1日より約1カ年</p> <p>2. 供与機材据え付けのための短期派遣とする。現地調達の場合は据え付けのための専門家は派遣しない。現地業者に依頼することが望ましい。</p>	<p>1. 現地調達で据え付けに伴う指導が可能であり機材のための専門家は不要であるが、コンピューター・グラフィクスや編集技術等応用面での高度な指導を短期専門家を期待しているので派遣にあつては専門分野を確認する。</p>
3. 研修員の受け入れ	<p>1. Computer Television Images (1) 期間1ヶ月、1994.11</p> <p>2. Television Editing (1) 期間1ヶ月、1994.11</p>	<p>1. 要望があれば1~2名の範囲で受け入れを検討</p>	<p>1. 希望研修内容に応じて今年度末に研修員の枠を確保した後受け入れ可能となる。</p>





## 2-2 調査・協議の経緯

本プロジェクトのチリ側協力機関であるチリ・カトリック大学教育番組制作部門である TELEDUC は、TELEVISION と EDUCATION の合成語であり、その名の通りテレビを通じて教育する機関である。この「教育」には大きく分けて、日本の放送大学に似てスクーリングも含めた体系的な教育を行い修了認定後に単位を与える「遠隔教育」と、一般社会へ向けた「教育テレビ」の2部門がある。

TELEDUC の上位組織であるチリ・カトリック大学はチリのトップレベルの大学であり、日本人には想像しにくい位社会に対する影響力を持っている。そのカトリック大学が一般テレビ放送局 TVuc (13ch) を有しており、この TVuc の作成番組は驚くことに番組別視聴率トップ10を独占している。TVuc はカトリック大学の放送局という性格から、その番組の品位を保ちつつ、この結果を得ているのである。また、大学自体が社会に対する使命を果たすために何らかのメッセージを発する必要がある場合、TVuc はその効果的な媒体となって大学のテレビ局であることの価値を発揮する。TELEDUC と TVuc は、組織的にはカトリック大学学長に直結した独立した組織であるが、組織規模としては TVuc が1桁大きく、TELEDUC は人材、機材共に TVuc に依存している。

TELEDUC は最近、スペイン・メキシコと共に中南米のスペイン語圏全体へ向けた衛星教育放送のプロジェクトの中核的な存在となっており、日本の TELEDUC への協力はチリ国内に強力な基盤を拡大しつつ、間接的には中南米にスペイン語圏全体にその効果を発揮することになる。

本件に関してはこれまで、1988年から教育番組編成・制作、制作技術、コンピュータグラフィックス及び調査研究の4分野（以下、「協力分野」と略す）において3カ年のプロジェクトが行われ、関係者の努力により技術移転及び機材供与が行われ、1991年6月に終了した。また、1991年4月の評価調査団においてその発展性が確認された。

プロジェクト終了後2年を経過した現在、既述の目的及び日程で調査・協議を行った結果、チリ側及び調査団は本プロジェクトに対するアフターケアの必要性を確認し、その概要について以下の通り合意した。

- (1) アフターケア協力は1994年4月1日からの約1年間を協力期間とする。
- (2) スペアパーツ、既供与 CG システム及び編集機器のグレードアップのための本件予算内での機材供与を行う。
- (3) 必要ならば、機材供与に関する短期専門家を派遣する。
- (4) CG 及び編集に関するカウンターパートの日本研修要請の日本側関連機関への取り次ぎを行い受け入れを検討する。

評価ミッション派遣から今日まで2年が経過しているが、協力分野における日本の協力の

成果は、更に発展した形で活着していると思われる。プロジェクト前の状況を直接知る者が調査団内にいないため、これまでの報告書等からの理解でしかないが、発展したことは確信をもって断定できる。

まず、「番組編成」に関しては社会状況確認から出発して必要とされる番組を企画している。教育テレビというと、我々にはNHK第2放送のイメージが強烈でありまたその中でも高校生・大人向けの番組が多数あるにもかかわらず、子供向け、それも幼児・小学生向けの番組を思い浮かべてしまう。高等教育まで全国に充分普及した日本では、TVというメディアの特徴が活着している証拠とも言えよう。しかし、他の国に比べれば格差は小さいと言われるが、教育に関してもチリの現状は南米特有の格差が存在している。初等教育は全国的に普及し識字率は100%に近いものの、首都以外の高等教育普及率は低く、また各学校の教師のレベル向上が必要と言われている。この現状の中で、子供も一緒に見られる教材付き教師向け番組という選択は当然とも言える。また、環境問題をとりあげた番組も作成し、首都サンチャゴの劣悪ともいえる大気汚染公害等の現代社会の問題にもとりくみ、組織の活性度を示すものと言えよう。「制作」に関しても日本人には多少演出過剰に見えることもあるが、技術的には高度なものである。

さらに、「調査研究」で結果を評価・番組へフィードバックする体制が活着している。昔は時間の長い番組が多かったそうだが、調査の結果、現在では子供の集中力の持続する17~18分にまとめられている。

独立採算なので資金的な制約はあるが、可能な範囲内で最大限努力している姿がうかがえる。「制作技術」的にも高いレベルで、日本国内の量産型の番組よりはるかに手の込んだものであり、いわゆる特番物に近い水準であった。「CG」も今では古く能率の悪い機種を使いながら、日本国内と同等のレベルを維持している。

現在でも供与機材は十分整備活用され、「供与機材そのものの維持」という観点では消耗品品のスペアパーツがいくらか必要な程度である。

TELEDUCは年間5本程度の新規番組シリーズを開設し、常に現代チリ社会が必要とする教育番組需要に込えている。また、本調査団が滞在した期間に最も印象的であった首都サンチャゴの大気汚染や貧富の格差についても、その解消に向けた番組作成を行っており、その社会に対する役割はプロジェクト終了後も更に拡大しているものと思われる。そのため、現在、編集機材はフル稼働状態であり、本プロジェクトによって確立されたチリ国内でのTELEDUCの社会的地位を維持向上するために、編集機器のグレードアップは必要不可欠と考える。

また、チリ国内のTV番組を視聴すると、番組作成の中でCGによる部分が大変大きいことが、日本との大きく違う点であることがわかる。TELEDUCはチリ国内のTV番組の中で



のCG利用の開拓者で、国内・国際のいくつかの賞を受けており、この分野での牽引者の役割を期待されている。しかし、この分野の技術発展のテンポは驚異的なものであり、すでに供与された機材は当時世界的にも最新鋭機だったものが日本国内では陳腐化機種となっている。この点からCGシステムのグレードアップが必要と判断した。

## 2-3 教育テレビに対するチリ国の体制・組織と TELEDUC

### (1) 教育番組の放送環境

チリの放送事情について概略をのべる。これまでの数次にわたる調査で、チリの放送事情は明らかにされているが、日本の放送事情からすると、なかなか理解しにくい状況がある。

チリでは、国内の有力な大学がテレビ局を所有、経営してきた。例えばチリ国立大学は「RTU」(11ch)、バルパライソ・カトリック大学は「UCV」(5ch)、チリ・カトリック大学は「TVuc」(13ch)を、それぞれ運営している。

このほか、もう2局の民放があり、サンチャゴではCATVが16チャンネル視聴できる。また国営では、チリ国営テレビ「TVnc」(7ch)が存在している。また、地方の大学が、その地域だけの小さなエリアの放送局を運営しているケースもある。

チリでは、大学の権威と社会的役割が大きく、教育と研究だけでなく、社会的なさまざまな活動を行ってきた。テレビ放送もそのような活動のひとつとして伝統的に大学が担ってきたのである。これらのテレビ局の主要な財源はコマーシャル収入であり、国営テレビも含め、コマーシャル放送が行われている。

以上のような民放局のなかで、もっとも有力なテレビ局がTVuc(チリ・カトリック大学テレビ、13ch)である。調査団が滞在していた7月の視聴率調査では、第1位の番組37.3パーセントから、第10位の22.8パーセントまで、上位10番組を13chが独占している。そのあとに少し水を空けられて国営テレビの番組が続いていた。

一国のテレビ事情としては異様な偏りであるが、チリテレビ界では、13chが圧倒的に優位を保っているようである。これは他局が海外のニュースや映画、番組などを中継、あるいは購入している部分が多いのに比べ、13chが本格的な制作スタジオを持ち、チリ国民の要求や好みに合わせて、50パーセント近くの番組を自社制作できる、という事情があるからと考えられる。

チリにおいて、教育を直接目的とした番組はこの13chで放送されている。番組表では、13chの朝9時15分から10時15分まで(土、日は10時30分まで)“TELEDUC”と記されている。“TELEDUCの番組”という意味で、これが教育テレビ番組の時間帯である。調査団の目的や経緯などにあるように、このTELEDUCは、チリ・カトリック大学が教

育テレビ番組実施のために設置した独自の組織で、チリ教育テレビプロジェクトはこの TELEDUC を対象に行われた。

カトリック大学、13ch、TELEDUC の関係や現状については後述する。

## (2) 教育テレビの“通信教育”としての機能

チリの教育テレビ番組事情で基本的なことは、番組の直接の目的が、“通信教育”にある、という点である。人びとは TELEDUC の番組を視聴するにあたって、生徒として登録し、テキストを購入して学習する。スクーリングや試験を経て、あるコースを修了したという資格を獲得することもできる。TELEDUC ではこのため、番組を一般的に「教育テレビ番組」とは言わず、CURSO (クルソ=コース) と呼ぶのが普通であり、番組の任務にかんする表現としては、Educación a Distancia 「遠隔地教育」と表現している。資格の社会的な重さの比較を別にすれば、このシステムはわが国の放送大学に似ている。

1992年度の TELEDUC の登録学生数は約26,000人であり、すべて成人である。登録したりテキストを買ったりしない視聴者のほうが、はるかに多く、この点では一般のテレビ番組と変わらない。また番組は完全に成人向けというわけではなく、番組によっては児童生徒も見られるような配慮もされている。全体に“固い教育番組”というイメージよりは、親しみやすい演出が意図されている。

## (3) 国家・行政のかかわり

TELEDUC は、完全にチリ・カトリック大学の自律的組織であって、行政的な、あるいは国家的な介入や規制を受けていない。

調査団が最初に訪問したチリ教育省のバジャグレス次官は、「チリでは教育は教育省が行うのではなく、国民のさまざまな機関が担う」「チリ教育省は日本の文部省のような中央集権的な力を持っていない」などと述べ、教育が民間の力に委ねられているチリの状況を説明した。しかし、番組に対しての間接的な教育省の支援は番組登録料の補助制度で行われてきている。

TELEDUC の見解でも、“チリでは教育テレビに対する公的な政策は存在しない”としている。また、かつては、各放送機関に、すくなくとも週2時間の教育番組の放送を義務づける法制度があったが、今はその法は失効している、とも指摘している。(附属資料

### ③ 質問票回答参照、以下「回答書」という)

ただ、チリのテレビジョン法に基づいて、教育省大臣を委員長とし、各テレビ局のトップや有識者で構成される「テレビ番組審議会」(National Television Council) が設置され、テレビジョン放送に関する政策決定、規則の監視、文化的な番組にたいする補助

金の割当て、などを行ってきた、とされる（1987年、プロジェクト事前調査による）。

また「回答書」にも、この番組審議会は各テレビ機関にたいし教育テレビ番組を制作、放送するよう督励してきた、とある。

しかし、同審議会は番組内容には介入しないのがたてまえとなっており、TELEDUCの現場で聞くかぎり、この審議会は、制作者にあまり意識されていないという印象を受けた。同審議会は暴力的な、あるいは露骨な性描写があった場合に、意見を述べ、勧告を出すことはあるという。

わが国の放送法では、放送事業者にテレビ番組の編集にあたり、教育教養番組、報道番組、娯楽番組、の3分野を設け、その間の調和を保つことを求めており、教育番組が学校向けである場合は、その内容が法令に定める教育過程の基準に準拠しなければならない、としている。

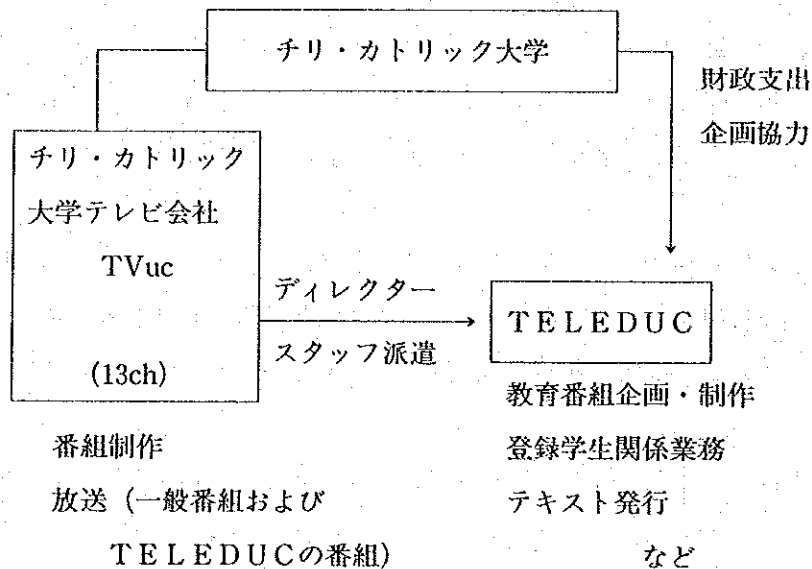
チリでは、以上のような状況から教育テレビ番組にたいする明確な法的基準やガイドラインといったものはないようである。また、チリの放送制度では、公的な負担制度としての受信料制度がとられていない。

TELEDUCの財政については別項でふれるが、教師向け番組にチリ教育省からの交付金があり、また、1993年度に全廃はされたが、かつてはコース番組に登録する教師に助成が行われていた。したがって、TELEDUCの教育番組への国家の財政支援が全くなかったわけではないが、TELEDUCの収入のうち、重要な部分を占めるのは登録学生の受講料とカトリック大学からの支出であり、財政的にも公的権力からは自立した存在である。

こうして、TELEDUCは、基本的には13chという商業放送と、チリ・カトリック大学の経営、という二つの枠組のなかで活動せざるをえない組織である。この条件のもとで、TELEDUCは、チリ・カトリック大学の社会的使命感に支えられて、コマーシャリズムにのりにくい教育番組を作りつづけ、テレビをつうじた教育、という独自の分野を切り拓いてきた。チリ教育テレビプロジェクトは、このTELEDUCの発展の基礎をつくるのに、大きな貢献を果たしたのである。

## 2-4 TELEDUC の組織・機構の現状

カトリック大学、TELEDUC、13ch、三者の関係は、基本的にはつぎのように整理される。



チリ・カトリック大学テレビ局は、民放テレビ局として1959年に運用を開始した。その後1977年に、教育番組を専門に企画・制作する機関として TELEDUC が学内に設立された。

TELEDUC は大学の意向を受けて教育番組を企画し、13ch および TELEDUC 独自の制作機能を使って番組を制作する。番組は13ch で放送される、という関係である。

TELEDUC は当初 4 人の職員でスタートしたが、JICA プロジェクト期間中に急成長をとり、現在は52人の専任職員を持つに至った。初期は番組の企画のみで、制作は全面的に13ch に依存していたが、現在は TELEDUC 内に番組の制作セクションと TELEDUC 専用のスタジオを二つ持ち、番組制作にあたっている。

ただ、TELEDUC の制作部を構成するディレクターとスタッフは、なお大半が13ch に籍を置いており、番組の企画やテキスト内容には大学各学部の意向が反映するなど TELEDUC は自律的な組織であると同時に、カトリック大学と13ch に深く依存し、その支援をうけて発展してきた。

TELEDUC の本部は、サンチャゴ市中心部にあるカトリック大学構内に置かれているが、これとは別に、大学テレビ局内にスタジオとポストプロダクション施設（編集室やCG作成室など番組完成のための諸施設）事務室などを確保している。

### (1) 組織

TELEDUC の組織図は図1のとおりである

学長に直属するようなかたちで TELEDUC の局長が位置している。その下につきの四つの部が並列におかれるという、きわめてわかりやすい組織である。

○学術部……大学の意向や社会的要請、行政からの要望などを受け止め、番組の企画を立て、テキストを刊行する。

○財務部……TELEDUC の財政及びマネージメントを担当する。

○学生部……番組視聴を登録する学生にたいするサービスや、スクーリングや試験を実施する国内15カ所の支部の運営、などを担当する。

○制作部……番組制作を直接担当するセクションで部長は13ch 所属のディレクターでもあり制作3チームを持つ。

CG部門は TELEDUC スタッフがいる。

以上のような組織のあり方は、1991年、プロジェクトの最終年に行われた TELEDUC の抜本的な組織改革によってもたらされたものである。

それ以前の組織と比較して、つぎのような変化が観てとれる。(質問表旧組織図参照)

- 1) 旧組織では、局長の上にあって TELEDUC を監督するポストは、学術担当副学長であった。図にはないが、当然この上に学長が存在する。新組織では局長の上は直接学長だけになった。この改変は局長の裁量の拡大と権限の強化を意図したのではないと思われる。
- 2) 旧組織では、番組制作は13ch のコーディネーターを通じて、テレビ局スタッフに委託される、という関係であったが、新組織では、制作部は13ch の一部門として、TELEDUC 内の部として確立された。
- 3) 急増する登録学生数に対応するため、地方支部を再編し新たな部として学生部が新設された。(図-2)

この組織改正は、プロジェクト以降の TELEDUC の発展、確立過程を象徴するものと思われる。各組織の任務が明確になり、制作体制が整えられた。

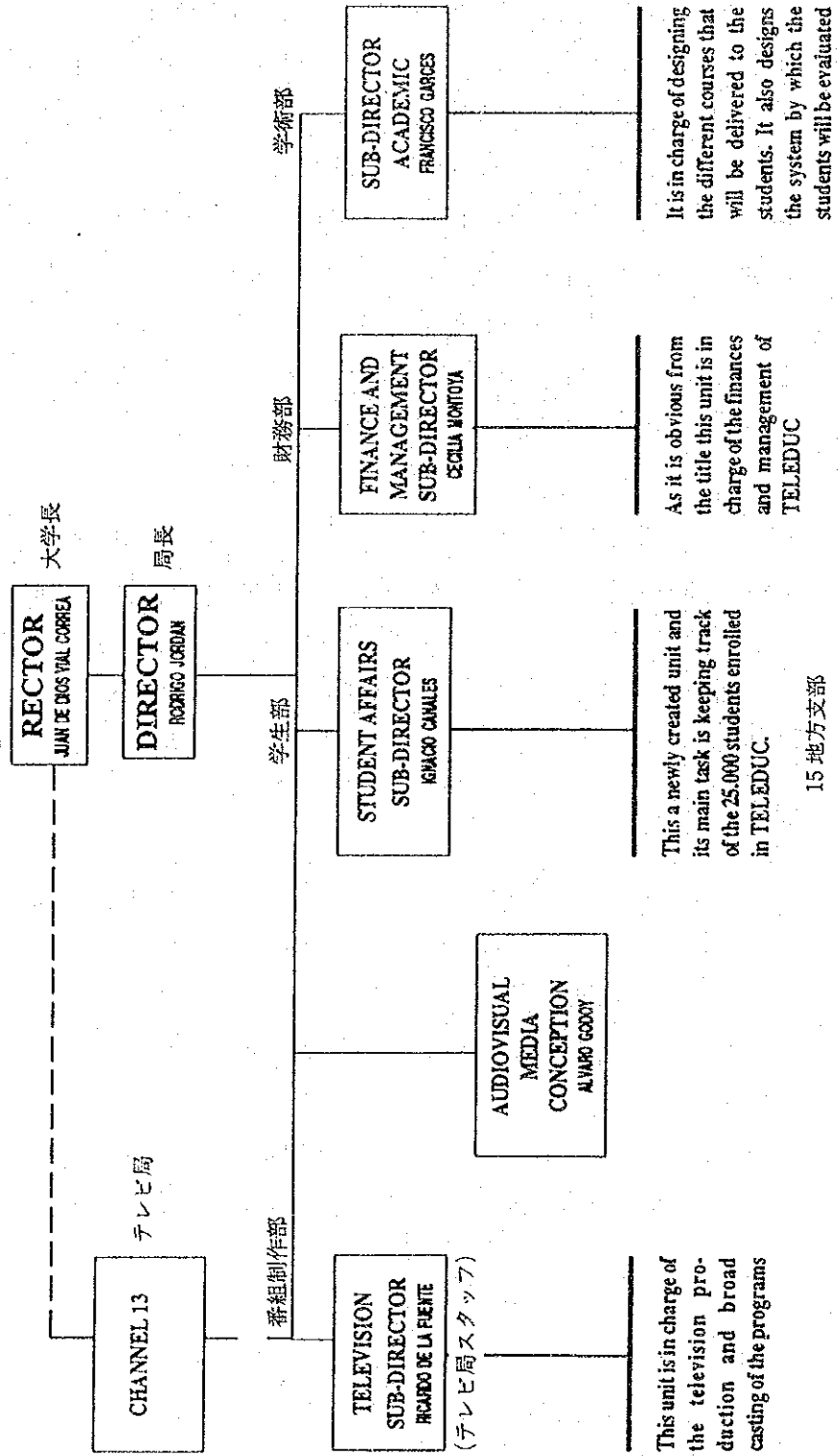
## (2) 予算

TELEDUC の収支予算の推移を表-3に掲げた。

これで見ると、TELEDUC の予算規模の拡大は目ざましいものがある。

1988年、プロジェクト開始期、約8730万ペソだった収入が、5年後の1993年には3億8400万ペソに増大した。プロジェクト終了時からみても2年後の93年はその1.5倍の額になっている。

図一 1 TELEDUC組織図



図一 2 学生部 (15 地方支部) 組織 TELEDUC 地方支部

名称 (地名)	設置機関：所在地、Tel.
ARICA	UNIVERSIDAD DE TARAPACA General Velasquez 1775, 222700-222600
IQUIQUE	UNIVERSIDAD ARTURO PRAT Av. 11 de Septiembre 2120, Playa Brava, 441200-441225
ANTOFAGASTA	UNIVERSIDAD CATOLICA DEL NORTE Angamos 0610, 241360
COPIAPO	UNIVERSIDAD DE ATACAMA Instituto de Post-grado, Rodriguez 660, 213410
LA SERENA	UNIVERSIDAD DE LA SERENA Campus Escuela de Administracion, 226080-272
VALPARAISO	CORPORACION DE TELEVISION UNIVERSIDAD CATOLICA DE VALPARAISO, Centro de Eventos UCV, Eleuterio Ramirez 353, 255417
RANCAGUA	UNIVERSUDAD EDUCARES Paradero 21, Camino a Machali, 212256-212336
TALCA	UNIVERSIDAD CATOLICA DEL MAULE Av.San Miguel s/n, 242949-17
CHILLAN	UNIVERSIDAD DEL BIO-BIO 18 de Septiembre 580, 223514-215259
CONCEPCION	UNIVERSIDAD CATOLICA DE LA SANTISIMA Cauplican 491, 246175-59
TEMUCO	UNIVERSIDAD CATOLICA DE TEMUCO Campus San Francisco, Montt 56, 210773
VILLARRICA	PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE Sede Regional Villarrica, San Martin 550, 411667
VALDIVIA	UNIVERSIDAD AUSTRAL DE CHILE Programa de Educacion Continua, General Lagos 911, 215150-218526
PUERTO MONTT	UNIVERSIDAD AUSTRAL DE CHILE Programa de Educacion Continua, Campus Pelluco, Los Pinos s/n,257085
SANTIAGO	PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE Alameda 340, Oficina 27, 2224516 anexos 2481-2393

この伸びを支えた主要なものは、登録料である。93年度には、予算中、登録料と関連書籍の収入で6割近くを占める。また各種の交付金もかなりの額になっている。教師むけ番組の制作にたいする教育省の交付金などが主要なものである。ただ、チリの国家財政の事情から、交付金が安定して入ってくる保障はなく、TELEDUCの財政上の努力は、広くスポンサーを探すこと、新しい登録者を増加させる魅力的なコース番組を開発することにむけられている。



表-3 予算

予算・収入

	1988	1989 / REAL	1990	1991	1992	1993
収入						
補助・後援・奨学金	3,472	18,748 /	17,799	80,000	100,000	80,000
コンピュータ講習会収入	6,715	8,700 / 廃止 0	0	0	0	0
書籍売上	16,288	17,864 /	26,950	19,229	50,000	11,000
登録料収入	29,766	37,680 /	69,131	61,141	100,000	200,000
その他	6,896	4,400 /	20,529	51,875	20,000	58,000
大塚本売上	7,519	7,150 /	7,150	8,100	廃止 0	0
大学・運営資金	5,089	6,216 /	12,353	8,235	1,338	0
大学・人件費	11,576	12,372 /	31,979	14,588	43,484	34,929
合計	87,322	113,130 / 142,136	183,891	243,168	314,822	383,929
収支	+4,158	-1,132 / +11,588	0	+12,440	+10,366	+12,047

(単位 1000 ペン)

予算・支出

	1988	1989 / REAL	1990	1991	1992	1993
支出						
購入費	4.321	6.475 / 7.543	9.850	10.272	8.950	10.740
消耗品	1.316	1.740 / 2.530	4.988	5.983	6.380	7.235
通信・運搬	5.338	4.331 / 6.143	7.734	7.852	8.200	10.800
パートタイム人件費	2.932	4.200 / 1.586	4.383	9.402	8.125	14.145
印刷費	20.201	26.750 / 28.279	30.439	49.741	53.720	35.000
保守・保険	1.378	1.822 / 5.958	3.914	8.160	5.210	7.630
番組制作費	4.503	5.954 / 5.235	15.382	16.210	18.472	17.557
教科書作成費	2.496	3.300 / 3.345	4.906	9.180	15.040	13.389
コンピュータクラス運営	5.313	7.025 / 0	0	0	0	0
著作料	10.482	13.860 / 19.272	20.501	17.140	41.900	8.435
人件費	17.382	23.578 / 39.830	63.767	69.191	73.801	85.830
雑費	0	4.300 / 2.638	8.499	12.820	15.320	51.420
地方支部運営	4.141	7.095 / 3.779	5.827	7.247	41.748	89.678
教授踏金	2.912	3.850 / 4.410	5.703	7.530	7.590	19.823
合計	83.164	114.262 / 130.548	185.891	230.728	304.456	371.882

## 2-5 技術協力各分野の発展状況

### (1) 番組の編成、制作分野

当アフターケア調査団の TELEDUC についての調査は、プロジェクト終了後どのように同組織が発展しているか、を中心に行われた。以下、評価調査時までの調査で明らかになった基礎的事実との重複をさけ、プロジェクト終了時から現在にいたる変化、発展を技術協力の各分野別に述べる。

第1の、番組の編成・制作の分野は、プロジェクト終了後最もめざましい発展を遂げた、と TELEDUC は表明している。(回答書)

#### 1) 一週間の番組内容と編成

TELEDUC の教育番組（コース番組）はつぎの4分野で企画される、としている。

- ① 教師教育
- ② 一般教養
- ③ 職業教育
- ④ 外国語

アフターケア調査時の93年7月に放送されていた番組のタイトル、一週間の編成は次表のとおりである。

7つの番組が毎週放送され、それぞれ1回ずつ再放送がある。

(訳は簡略にしてある)

93年第1期

(\*印は前年の再放送)

	月	火	水	木	金	土	日
9:15	“了解” ～民主的 生活法～ *	音楽世界 の探究 *	英語講座	音楽世界 の探究 (再)	英語講座 (再)	“了解” ～民主的 生活法～ (再)	自治体発 展の計画 手法 (再)
	天文学 *	教育と学 習の戦略 *	プロの ビデオ術	教育と学 習の戦略 (再)	自治体発 展の計画 手法	天文学 (再)	プロの ビデオ術 (再)
10:15	話題や社会問題の短いレポート (「ルポルタージュ」と総称)						
10:30							

## 2) 放送期間

TELEDUCの番組は通年の放送ではない。放送期間は5月～11月の7カ月で、それが次のように前後2期に分けられる。

1期 5月3日～8月15日

2期 8月16日～11月28日

したがって、前表の7つの番組は8月半ばで第2期の番組と交代する。各番組とも一期12回のシリーズで、年間14番組が放送されることになる。ただ、あとでみるように、前年度の番組の再放送が多く、第1期の7番組のうち、新作は「ビデオ術」と「自治体発展の計画手法」の2番組である。第2期は3番組が新作とのことで、調査団が訪れた7月、TELEDUCでは新番組のテキストやポスターの準備が進んでいた。

## 3) 番組の印象

購入番組と思われる英語講座を除いた6番組をすべて視聴してみた。全体に予想したより、演出が濃く、個々の番組が丁寧に、手をかけて作られているという印象を受けた。

ほとんどの番組がドラマ形式を取り入れている。例外は「天文学」ぐらいである。

ドラマで分かりやすく問題を提起し、番組ティチャーが解説してゆく、というスタイルである。現実の取材映像もある。「自治体発展計画」の番組ではドラマタイズした部分だけでなく、地域の人びとのインタビューや取材映像がとりいれられている。視聴者を飽きさせないテンポと、素材の多様性が意識されているようだ。またCGも効果的に使われている。

特徴的なのは、TELEDUCの放送時間帯全体を通したキャスターがいる点で、男女2人の司会者が、個々の番組を紹介し、番組と番組をつないでいく、という形式をとっている。この部分の時間量がかなり多い。番組最後にある話題や簡単なルポのコーナーも、2人の司会によって紹介、意味付けられていた。いわばTELEDUCの時間帯が、全体でひとつのディスクジョッキー形式の番組になっている、と言ってよいであろう。

これも、教育番組を親しみやすくするくふうである。1986年の予備調査の報告でも同様のことが書かれているので、このスタイルはTELEDUCの伝統かもしれない。

すでに述べたように、TELEDUCのいずれのコース番組もテキストがあり、一般人が登録して学習する番組であるが、内容的には学校で教師と生徒がともに見ることも想定されており、現実にも「天文学」などは教室で視聴されている、と関係者はいう。ただ内容やテンポからみて、視聴するにしても、高学年以上に限定されるであろう。

日本であるような、学校の児童、生徒を直接対象とした教科番組のようなタイプの教育番組は、チリでは今のところ存在しない。

#### 4) プロジェクト終了以降の放送番組

プロジェクト開始時の1988年、番組数はわずかに4つであった。それが終了時の91年にはほぼ現在の規模に達して、年間13番組が放送されるに至った。その後、登録による番組利用者の拡大に対応して着実に番組が新作され、規模が維持されてきている。

プロジェクト終了年の1991年以降放送された番組をつぎに掲げる。

(制作年度の記入のないものは、90年以前の制作か購入番組。TELEDUC 提供資料により作成)

##### 1991年 1期・2期

- ① プロの写真入門 ..... 1991制作 一般向け
- ② 市場調査入門
- ③ フランス語講座 基礎・上級
- ④ 美術世界の探究 ..... 1991制作 成人教育
- ⑤ 教師のための12の挑戦 ..... 1991制作 教師教育
- ⑥ ALLES GUTE! (ドイツ語講座)
- ⑦ フランス語講座 上級
- ⑧ 文字表現の遊び
- ⑨ 自然科学実験室
- ⑩ 住宅改良の技法
- ⑪ PERSON TO PERSON (英語講座)
- ⑫ 効果的コミュニケーション
- ⑬ 新ビジネスの創造 ..... 1991制作 一般向け

##### 1992年 1期・2期

- ① フランス語講座 基礎
- ② 音楽世界の探究 ..... 1992制作 成人教育
- ③ 研究と教育の戦略 ..... 1992制作 教師教育
- ④ “了解”～民主的な生活方法～ ..... 1992制作 一般向け
- ⑤ PERSON TO PERSON (英語講座)
- ⑥ REPORTERS (青少年のための英語)

- ⑦ プロの写真入門 ..... 再放送
- ⑧ 美術世界の探究 ..... 再放送
- ⑨ 文字表現の遊び ..... 再放送
- ⑩ 教師のための12の挑戦 ..... 再放送
- ⑪ 自然科学実験室 ..... 再放送
- ⑫ フランス語講座2
- ⑬ 新ビジネスの創造 ..... 再放送
- ⑭ 天文学 ..... 1992制作 一般向け

#### 1993年 1期

- ① 研究と教育の戦略 ..... 再放送
- ② REPORTERS (青少年のための英語)
- ③ 音楽世界の探究 ..... 再放送
- ④ “了解”～民主的な生活方法～ ..... 再放送
- ⑤ 自治体発展の計画手法 ..... 1993制作 一般向け
- ⑥ プロのビデオ術 ..... 1993制作 一般向け
- ⑦ 天文学 ..... 再放送

以上のような制作と放送のサイクルを見てわかるように、年度を越えた再放送があり、番組は2年間にわたって放送するシステムになっている。したがって、毎年の新規制作は4、5シリーズである。再放送を効果的に組み合わせることで、作業量を調節し、重点的な番組制作を可能にしようというのであろう。

TELEDUCの番組制作チームは3チーム、12月から4月まで放送のない期間がある、ということを見ると、かなり手をかけた番組作りが可能な感じがする。

#### 5) 番組の評価、受賞など

1991年の評価調査時の報告によれば、1990年に、TELEDUCの番組の評価が高まりソニー東京ビデオコンテスト金賞をはじめ、5つの番組賞を受けたことが紹介されている。

その後も評価は維持され、1992年には「美術世界の探究」で同じソニー東京ビデオコンテスト銀賞、「住宅改良の技法」で、教育番組唯一の国際コンクール、日本賞の奨励賞を受賞した。日本賞奨励賞は、今回調査のミニッツ署名の際、チリ在住日本大使館からあらためてチリ・カトリック大学に伝達され、表彰が行われた。

TELEDUCの番組は、中南米で注目され、エクアドル、アルゼンチン、ウルグアイ、ボリビア、ペルーで放送されている。また中南米スペイン語圏の諸国の放送機関が作っている共同組織、イベロアメリカ教育テレビ連合 (ASOCIACION DE TV EDUCATIVA IBEROAMERICANA) が、スペイン政府の協力で、通信衛星ヒスパットを搬送用に使い、番組交換などの協力を開始した。(1993年7月から1日1時間、しだいに時間を拡大する計画)

TELEDUC関係者によれば、制作部長のリカルド・デ・ラ・フェンテ氏が、イベロアメリカ教育テレビ連合の事務局のメンバーとなり、ヒスパット運用開始の時期のプロジェクトを担当するなど、TELEDUCはその実績を買われて、指導的な役割を担っているとしている。

## 6) 視聴者の増大

### a) 番組の視聴システム

もう一つ特徴的なことは、TELEDUCの番組視聴者、とくに登録学生の増加である。

TELEDUCの番組は、前述したように、基本的にはテレビ番組を通じた“通信教育”のためのものである。希望者は番組を選択して、申し込みを行い、テキストを送ってもらう。一つのクルソの登録料は約40ドル、16,000ペソで、日本円で4000円くらいである。サンチャゴの平均的な勤労者の月収が15万ペソ程度だということを勘案しなければならない。(93年度「プロのビデオ術」のみ20,000ペソ)

登録した学生は、番組を視聴しながら、学習し、地方のTELEDUCの支部が開くスクーリングに参加する。最後は試験を受け、合格すると修了証、Diplomaが授与される。

この資格が、チリ社会でどれだけの重みがあるのか、今回調査ではもっとも分りにくい事項のひとつであった。登録学生である何人かの教師の声をきいたが、資格をとる、ということはあまり意識されていなかった。むしろ自分を高めるために、自己啓発が目的だという声があった。しかし、権威あるチリ・カトリック大学のコースを修了したというのは、一定の社会的評価を登録者に与えるかもしれない。企業によっては、受講生の向学心と努力を認め、給与や地位で差をつける、というところもあるという。

TELEDUCの番組の学生数は、プロジェクト開始時に9000人であったのが、91年、プロジェクト終了年には2万6000人に達した。その後、やや減少したが、1993年には2万3000人、94年には2万5000人を予測している。(表4参照)

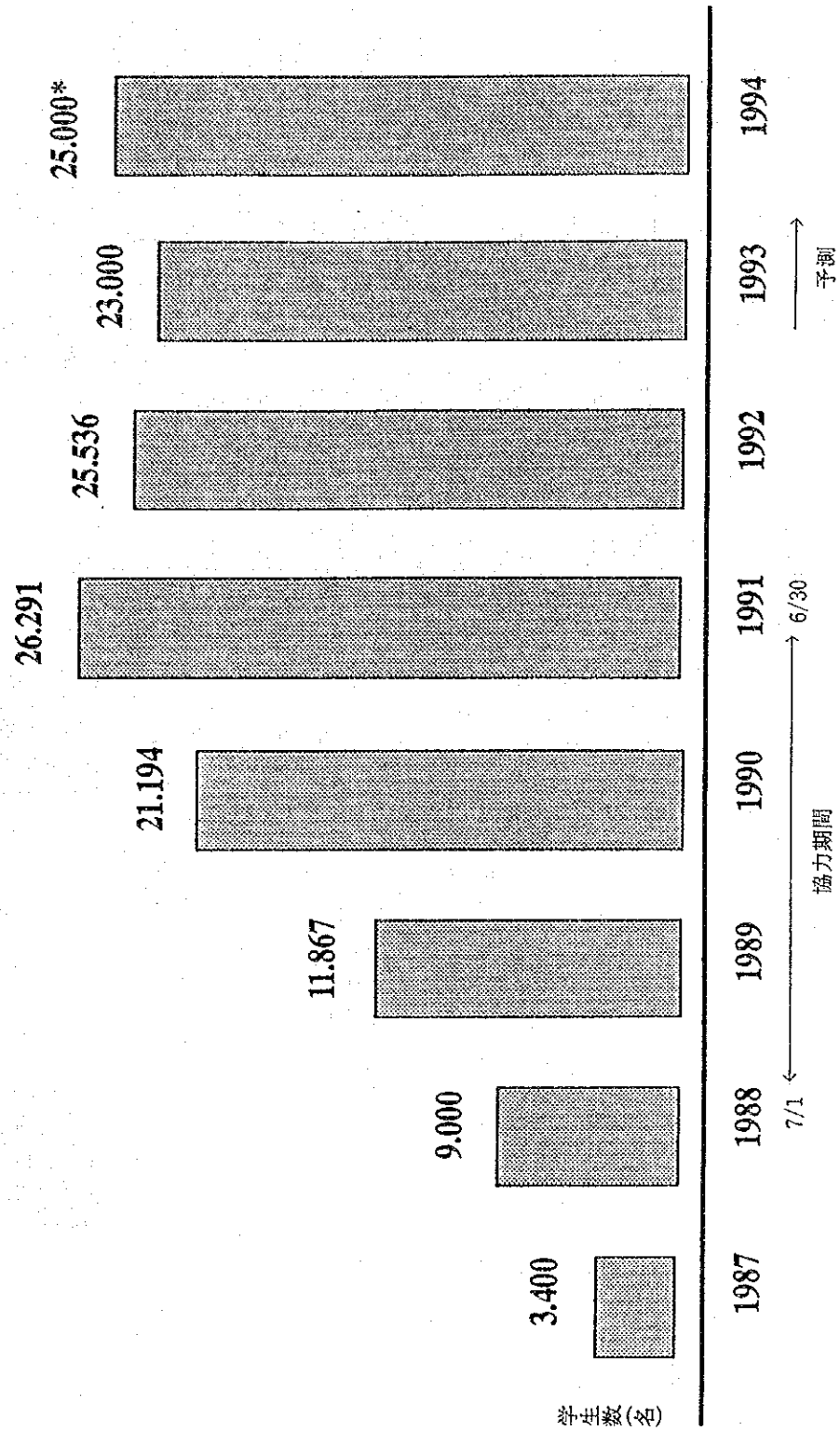
登録しないで番組をみている視聴者は、この10倍を超える30万人と、関係者は推定している。

登録学生のほぼ6割は教師である。TELEDUCの番組は教師教育に大きな役割をはたしているといえる。登録した教師の人数の推移を表5に掲げた。

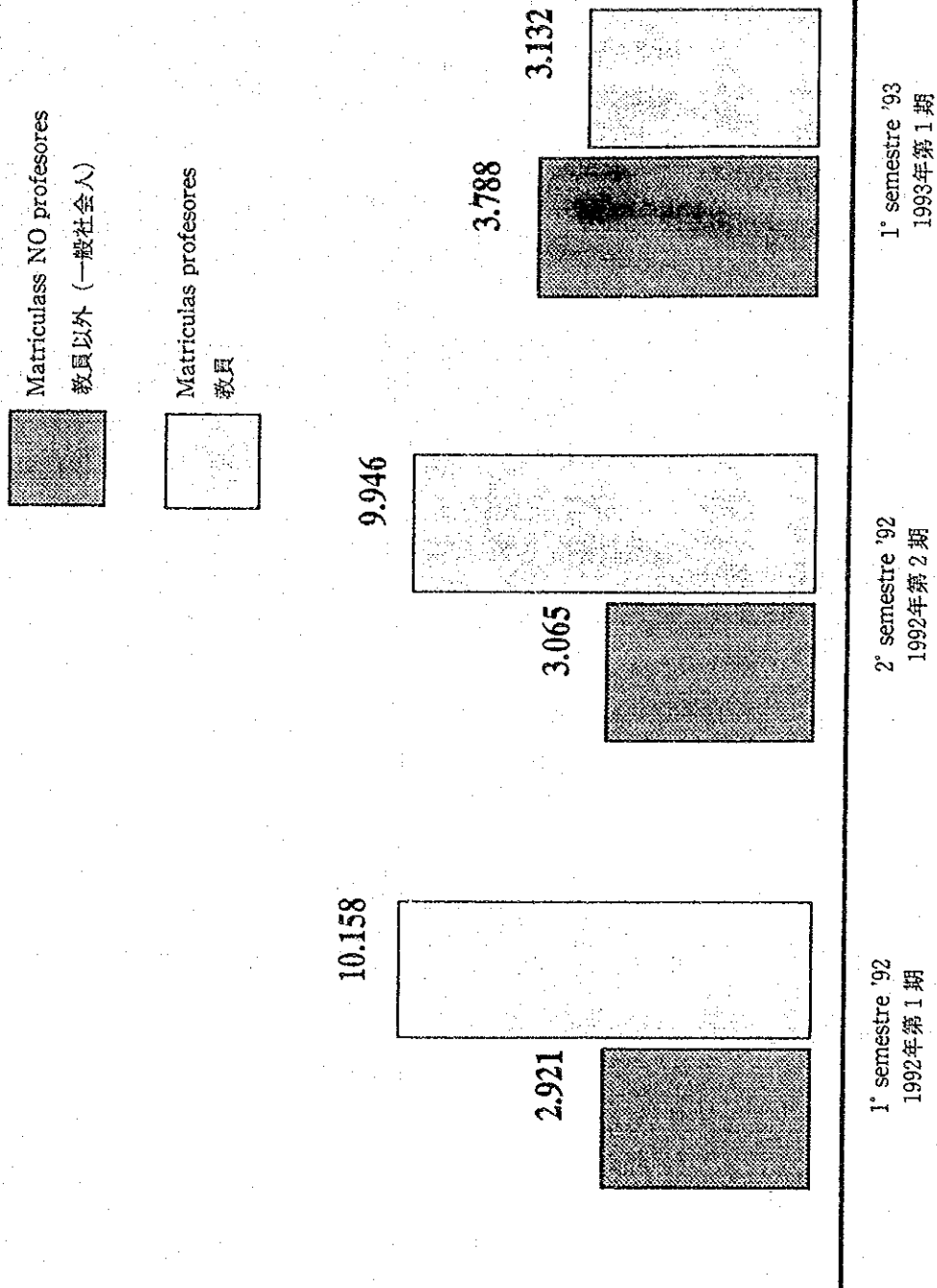
教師が番組を受講する場合、登録した際に教育省から一人10,000ペソの助成があった（クーポンという形で支給される）。92年度には1万6000人がその対象になったが、93年度にこの制度は全廃された。TELEDUCの受講生のうち、教師が大きく減ることが予想されているが、教師以外の登録学生が年々増えているので、激減はしないという見通しである。（表5～7）



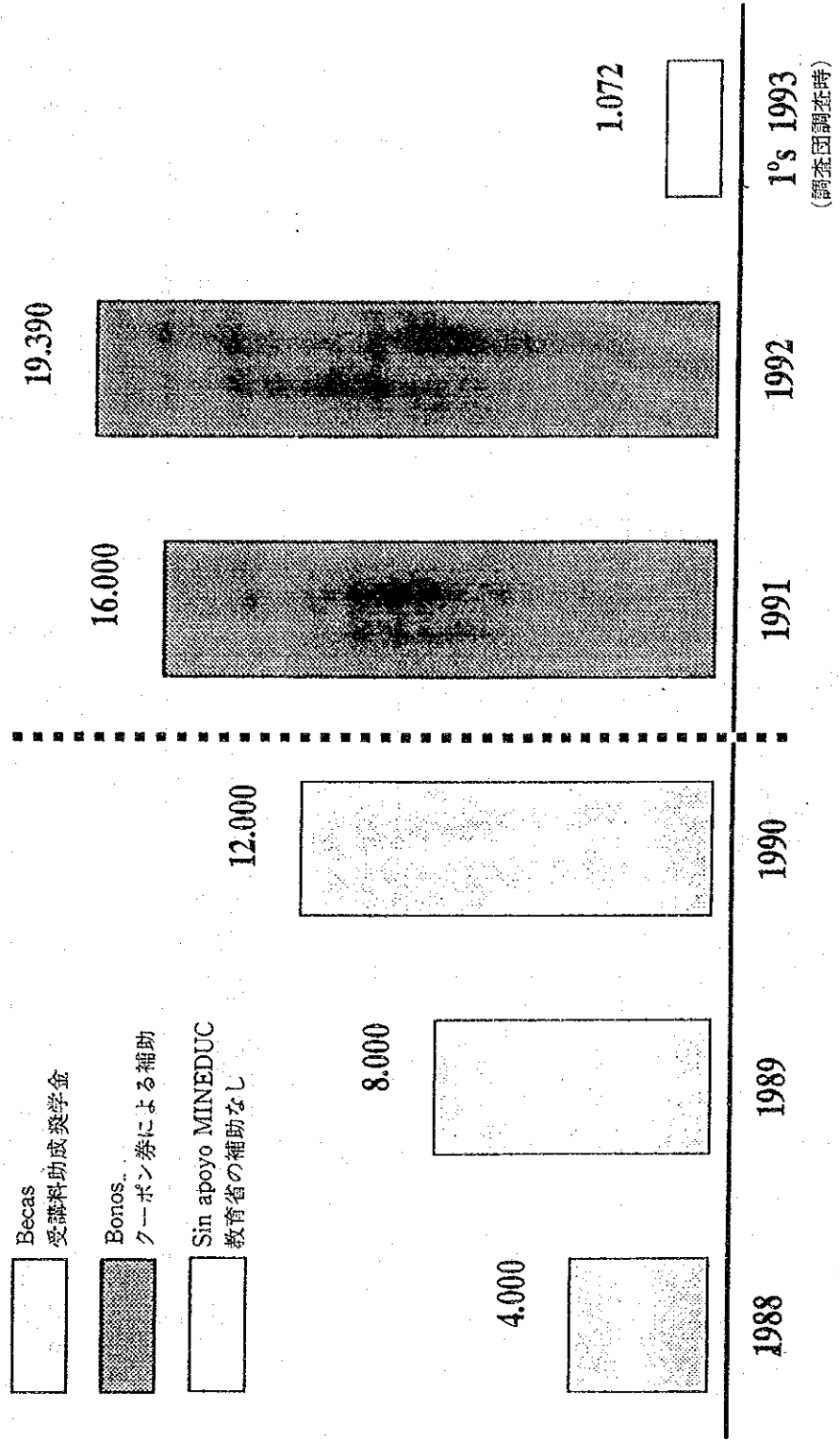
表一 4 登録学生数



表一5 登録数の比較



表一6 学校教育に対する便宜



表一7 TELEDUC活動の推移

	1984	1988	1990	1993 推定
登録学生数	3.577	8.200	17.537	23.000
地方支部数 SEDES	8	21	22	(再編) 17
コース番組 CURSOS	4	4	13 (11)	14
年間放送時間 (分) TIEMPO DE TRANSMISION	7.800	8.200 (5コース)	10.400	17.100
総編集ページ PAGINAS EDITADAS	206	1.215 語学+ (274)	817 語学+ (342)	1.250
テキスト数 TITULOS PUBLICADOS	2	3 語学 + (1)	3 語学 + (2)	5
総印刷部数 EJEMPLARES IMPRESOS	4.000	7.000 語学+ (1.000)	7.000 語学+ (3.100)	22.000
教育対象分野 AREAS DE ENSEÑANZA	1	4	4	3 + (5)
職員数 PERSONAS EN TELEDUC	9	24	40	52
助成協約件数 CONVENIOS	0	2	5	7

b) 利用実態の一例～モニタリング指定校を訪ねて～

コース番組（クルソ）の利用状況を把握する目的で、調査団はプロジェクト中のテレビ番組のモニタリング指定校で、サンチャゴ郊外メリピージャ町にある、エル・レマンソ小学校を訪ねた。

見渡すかぎり平坦な畑の連なるなかに、木造平屋建ての粗末な校舎が建っている。

あいにく冬休みで、子どもたちに会えなかったのが残念だったが、質素な教室は子どもたちの絵や作品の豊かな色彩で彩られていた。調査団は女性校長、マリア・ブエノスさんと教師たちに温かく迎えられた。案内役は調査・研究分野のカウンターパートであったカトリック大学のバブリナ・ドミンゲス教授（教育心理学）である。

チリの初等教育は、1年生（5歳）から8年生（12歳）までである。エル・レマンソ小学校は児童数176人、1学年1クラスの規模で、校長のほか、教員は9人であった。

TELEDUCのクルソに登録している教師は8人。内訳は、「教育と学習の戦略」6人、「天文学」1人、「了解」～民主的な生活法～」1人となっている。

番組についてはおおむね評判がよかった。子どもたちには6年生以上に教室で見せている。子どもには少し難しい内容だが、しだいに慣れて、テレビ視聴を楽しみにしている。テレビをみた後は教室は活気があり、休み時間になっても話し合いが続くことがある、という。広い学区から4～7キロも歩いて通う子どもたちもいるが、放送を利用するようになって登校率が高くなった、という。卒業したあと、多くの生徒は専門学校へ進むが、テレビを授業に取り入れてきたこの小学校の出身者は他校の生徒より成績が良い、と誇らしげに語る教師もいた。

教師たちはこうして番組を子どもたちと一緒に視聴し、自分ではテキストで勉強する。クルソの終了資格を得るためというより、教師としての力を高めたいからだ、という声が代表的なものだった。教室にはテレビとビデオが備え付けてあったが、ナマ利用で、ビデオは使っていない。教材費が乏しく、テープを買うことが出来ないからという。

今後どのような番組を望むかという質問には、「子どもたちは自然科学の番組を好むので、エコロジー関係の番組が欲しい」「体のことを知る、衛生や健康教育の番組も要る」「社会科の番組、例えば世界の地理の番組ができないか」「英語教育が重視されているが、教える力のない先生が多い、現行の英語番組を見せているが子どもたちが使えるテキストがないのは困る」など具体的な要望が述べられた。

教育テレビの量について、番組の数が足りないのではないかとたずねてみた。日本の学校向けの番組の数に慣れた感覚からして、一週7番組、それも成人教育が主流、

というチリの状況は、教師にとって不満ではないか、と思ったからである。

ところが、この問いに対して、もっと増やしてほしい、という声が即座に上がらなかったのが印象的だった。番組が増えても、本格的に利用するためにはテキストを買わねばならない、そのためには TELEDUC に登録しなければならない。経済的に限界がある、というのが教師たちの反応だった。

この小学校の訪問で二つの印象がある。

第一に、TELEDUC の番組の、登録による利用が定着し、教育現場で根を下ろしていることが実感された。この小学校の場合、モニタリング指定校であり、放送利用の意識が高いからだとも言えるが、この小学校でみたようなかたちで、チリ全国で2万人近い教師が TELEDUC に登録し、学んでいるという状況は、TELEDUC が、視聴者のあいだで権威をもっていることを窺わせる。

第二は、チリの教育テレビの将来には、TELEDUC のような“通信教育”的ではない、児童生徒の発達段階と教育課題に合わせた「学校放送番組」の、広大な分野が、ほとんど手を付けられずに残されている、という点を改めて感じた。

エル・レマンソ小学校の教師たちの放送利用の体験からも、現行の番組を利用するだけで、放送による触発、意欲の喚起、授業の改善、といった、放送教育に伴うさまざまな効果が語られた。今後 TELEDUC をはじめ、チリの放送制作者が、この分野にどれだけ関心を示すかが注視される。

## (2) 制作技術分野

カトリック大学放送局 (TVuc, 13ch) で現在、放送されている放送電波の伝送画質は、極めて良好である。映像信号の切れの良さや、異なった番組に切り替わっても映像画質は問題なく維持されている等放送局の管理状態がサンチャゴ市内の受信画像のよさでもほぼ推察出来る。この事は各種放送設備の全体の動作、機器間の受け渡し動作レベルがきちっと管理されているに他ならない。番組制作の現場であるスタジオから送信機まで、また最後にアンテナから電波が発射されるまでのトータルシステムとしての放送技術設備の全体の維持管理が把握され行き届いているためであり、放送技術力、技術管理能力等が、優れていることの現われでもある。

また、TELEDUC による番組制作技術面の技術移転の視点から見た場合でも成熟し達成された感がある。放送されている番組の切り替えの変わり目や場面ごとのカメラの切り替えタイミング等不自然さはなく、加えてカメラの色調、トーン差等も無く非常に洗練された画面作りをしている。カメラワークの手際の良さは全くどの番組を見ても遜色の無いものとなっている。

この事は番組制作に関わる手法、技術等の移転はほぼ達成されたものとみてよい。コンピュータ・グラフィクスの教育番組への活用で先駆的役割を果たした TELEDUC であるが、独自の画像作りがチリの TV 放送に随所に多用され独特の画像効果をあげている。

数々の国際優秀番組賞に輝く TELEDUC の教育番組制作の実績を踏まえて今年の 7 月に歩み出したイペロアメリカ教育テレビ連合（スペイン・メキシコ・チリが中心となって 150 以上の組織が参画）による、スペインの衛星 HISPASAT のトランスポンダ 1 チャンネルを使い、中南米スペイン語圏域に向けて教育放送を開始したが TELEDUC は 1 日 1 時間の番組提供を始めている。

TELEDUC の教育番組制作は現在も、技術的な分野は全て TVuc の協力下に置かれている。今後も以下に述べる厳しい外部環境下、この体制は続くと思われる。

チリのテレビ放送界はこの分野での政府の自由化政策、TV 技術の進歩にともなうユニシヤルコストの比較的低廉化等によって、民放局が増加しサンチャゴ市内でも TV 放送波 6 チャンネル、ケーブル TV が 16 チャンネルと多チャンネル化し競合している。経営的には独立しているカトリック大学放送局にとってこの外部環境は今後競争の激化を向かえる事を意味し、カトリック大学教育 TV 放送を維持するためには厳しい経営環境を向かえると経営スタッフは認識している。

TELEDUC の教育番組は放送時間もプロジェクト当時より拡大、定着化し別紙に示されているようにレギュラー化されて毎日の定時番組となり放送されている。

これらの放送時間枠増に対する番組制作のため制作チームは 4 人構成でプロジェクト終了時の 2 チームを 3 チームとした制作体制により当たっている。本プロジェクトによる供与機材は TVuc の技術スタッフによって保守運用管理され活用されている。特に編集システムの稼働率が高く要員を夜勤シフトするなど工夫し番組制作量増に対応しているが処理能力、生産性にはほぼ限界に近い所にきている。

供与機材の内、テレビ中継車の活用は教育放送の実学の分野で発揮出来ると思われる。

TVuc では現行予算、スタッフ体制（チリ独特の労働階層の障壁等）からみてテレビ中継車の活用は中々軌道に乗らないとしているが、学校や工場等に出向き実際の現場で中継制作するなどして番組制作コストの低廉化に努力すれば結果的には教育効果のあがる実学教育の面で、チリ教育放送の新たな展開として貢献する事が可能である。テレビ中継車は「動くテレビスタジオ」として現行の技術力と要員体制で班編成をする等工夫し活用すれば多大な経営効果を生むはずである。

これらの制作方式（中継現場での制作・編集技術により一貫して完成する番組作り）を定着化させる等の方向に重点をおいた研修員の受け入れ策を施す事が必要と思われた。

一層の活用は今後の課題である。この活用が定着すれば自主制作番組の枠、拡大等にも貢献出来、まさに名実ともに放送局の有り様と放送技術システムのインフラは要員ともども完全に整うことになろう。

### (3) コンピュータ・グラフィクス (CG)

カトリック大学はもともとコンピュータ教育に1984年頃から、PROJECT CRISOL 計画等により積極的に取り組んでいたといわれ、人材の下地等、受け入れやすい環境下にあった。しかし、本プロジェクトによって供与されたコンピュータグラフィクスによる教育番組への効果的な活用については初の試みであり、当初から TVuc が機器、スタッフともに一切整っておらず、TELEDUC が独自でプロジェクトを発展させてこなければならぬ状況下にあった。

プロジェクト期間中に CG を担当するデザイナーの日本での研修、短期専門家の派遣などが行われ TELEDUC の CG 部門の基礎が築かれた。TELEDUC はその後、CG によって発生させた画像の特殊効果を積極的に教育番組の中に取り入れて番組制作者の意図する一層の効果的な表現力に資する努力を続け、教育番組の質を高め発展させてきた。特に教育番組では、抽象的な概念の説明、理解を助ける図解、現実には撮影出来ないイメージの提示、などで CG が効果的であることは言うまでもない。現在日本から供与された CG 機材によって、番組は全て内部で制作されフル稼働の状態である。

プロジェクトの発展の成果の一つでもある「チリ技術開発発展振興協会・技術革新特別賞」を受賞するなど、チリの CG 界の先駆的役割を果たしてきた。この事は本プロジェクトで果たした技術移転の成果は大きく TELEDUC の教育番組への CG の活用を実現し軌道に乗せたカウンターパートの努力に対し、又現在の制作水準を含めて極めて高い評価を与える事が出来る。CG のデザイナーも、プロジェクト期間のカウンターパートに加え、若いスタッフがもうひとり加わって、体制が強化されている。今後とも一層の効果的な CG の活用を推進する必要があるのはチリ TV 放送界の趨勢である。

しかるに現今のコンピュータ技術の進歩、進化は当時とは隔世の感があり、CG の技術およびその応用分野の発展は目覚ましいものがあり当時供与された機材は処理速度、グラフィクスの表現力に限界があり、番組制作者の意図に沿う、よりきめ細かな表現力の創造にたいして応える事は出来ず制作に要する時間は膨大となっている。また他の放送局で導入されている CG の表現力にはかなり優れているものが始まっており、表現力の機能に陳腐化の様相を呈して来ている。今後明らかに厳しさを増す経営環境となるなかで競争に打ち勝ち安定的にしかも短時間で創造のできる CG の画像制作の処理能力の向上は必須の条件となる。



#### (4) 調査・研究分野

調査・研究では、エル・レマンソ小学校へ調査団を案内した、カトリック大学のバブリナ・ドミンゲス教授及び学術部長フランシスコガルセス氏がこの分野のカウンターパートであった。

ドミンゲス教授は、プロジェクト期間中、日本の専門家と協力して、TELEDUCと教育テレビについて、広い視点から数々の調査・研究を行った。チリにおける放送教育の理論の開拓的な指導者として、プロジェクト終了後も、教育テレビに関する調査・研究を継続しているとともに後進の育成にあたり、かつてはドミンゲス教授一人だったこの分野に優秀な若手研究者が育っている。

ドミンゲス教授は、教育テレビに関する研究で、チリの科学・技術基金に応募、獲得に成功した。現在、この基金によって、幾つかの調査・研究を進めている。また、中南米の放送教育理論の権威として、イペロアメリカ教育テレビ連合の関係会議に向け、21世紀の教育テレビの課題についての報告書を作成中である。

#### (5) 元カウンターパートの活動状況

プロジェクト時のカウンターパートが現在どうなっているかについては、資料(2)に一覧を掲げた。

一見してわかるように、TELEDUCの仕事を担う中心的な人びとが、ほとんどそのまま残って、現在の業務にあたっている。とくに、日本に派遣され研修をうけた12人のうち、退職した前局長を例外とすれば、11人全員がそのまま残っている。

これは特筆に値する事実であり、プロジェクト終了後も、強固な継続性が確保されていると言えよう。

アフターケア調査団を迎えたのは、プロジェクト期間中、日本人の専門家たちと労苦を共にし、時には激論を闘わせながら、TELEDUCの発展を担った人びとであった。日本のこと、日本人専門家を懐かしがる声が誰からも聞かれた。

アフターケアでの諸要求が、このように、プロジェクト期間中からの業務を継続してきた人びとから出されていることは、その妥当性を判断するうえで、考慮されてよいであろう。

表-8 カウンターパートの現在の活動状況

氏名	専門及び配属		期間 (配置・異動・退職)		(日本研修)
	1988.7	1991.4	1993.7	今回調査	
Alfonso Gomez *	C/G・準高級 局長	→88.8 →90.退職	→	→局長	1989.1
Rodrigo Jordan	局長	90.10	→	→デザイナー	1988.11
Ricardo de La Fuente*	教育番組制作13ch	→88.8			
Begonia Bofill	教育番組制作13ch	88.11→89.8.退職			
Jorge Braidot	教育番組制作13ch	89.3 →89.9局内異動			
Gabriel Bravo *	教育番組制作13ch	89.10	→	→デザイナー	1992.1
Pilar Henriquez *	教育番組制作	89. →	→	→	1990.1
Rafael Richard	制作技術13ch	→88.8	→	→技術部長	
Flores Cortes Sergio*	制作技術13ch	→88.8	→	→	1988.11
Luis Silva Tapia *	制作技術13ch	→88.8	→	→	1990.1
Alberto Claudio Araya*	制作技術・C/G 13ch	90.1	→	→	1991.7
Patricio Munos Espinoza*	制作技術13ch	→88.8	→	局内異動	1991.6
Patricio del Rio	カメラワーク (OBVAN) 13ch	→88.8	90.9→	→	
Jose M. Pina	カメラワーク (OBVAN) 13ch	→88.8	91.4 →91.8.退職	→91.8.退職	
Claudio Gomez *	C/G	→88.8	→92.退職		1990.2
Luis Andres Meneses M.	C/G	→88.8 →89.6.退職			
Renato Pacheco *	C/G	89.8→			
Maria Paulina Domingues*	調査・研究 大学	→88.8	→	→C/G担当	1991.11
Francisco Garces *	調査・研究	→88.8	→	→教育心理学教授	1988.11
			→	→学術部長	1989.5

(\*: 日本研修)

日本での研修受入数 合計 12名  
 1988年度 4名  
 1989年度 4名  
 1990年度 都合により中止  
 1991年度 4名

## 2-6 TELEDUCの将来計画とアフターケアの位置付け

ロドリゴ・ホルダン局長は、TELEDUCの現状認識と今後の課題について、調査団に詳細な説明を行った。その骨子はつぎのようなものである。

TELEDUCは、カトリック大学と13chの援助のもとで、1991年からの5ヵ年計画を策定した。

それはTELEDUCをめぐる状況が大きく変化したからである。

第一に、受講生の急増などTELEDUCの規模が急速に拡大したこと。

第二に、1989年の法改正で大学の設置が容易になり、80年に8つしかなかった大学が、90年には73大学に増えた。この結果、郵便による通信教育を行う大学もあり、教授の新設大学への流出もおこりいろいろな面で大学間の競争が激しくなった。また、教員に対する登録料への教育省援助も打ち切られた。

第三に、テレビ界が変化した。技術進歩で、比較的小さい投資で放送が開始でき、競争がはげしくなった。

これらの状況に対応するため、TELEDUCは調査を行ったが、その結果7つの重点分野が明らかになった。

- ① 番組の高品質化と関連サービスの充実
- ② 一般の要求にあった番組の実現
- ③ 登録者、市民との関係強化（社会へのインパクトを強める）
- ④ 教育のための新技術の導入
- ⑤ 他の組織、諸機関との関係を強化
- ⑥ カトリック大学が必要とするサービスの提供
- ⑦ 財政的確立、独自運営

以上の認識に基づきTELEDUCの新たな任務を次のように設定した。

- ① 唯一のマルチメディアの教育の提供（テレビ、書籍、集合研修など）
- ② 貧しい人びとへの教育の普及
- ③ 遠隔地にあつて教育の機会に恵まれない人びとへの教育普及
- ④ 全ての人びとへの教育機会の提供

中心となる番組についてホルダン局長は、2つのタイプに分類して、TELEDUCの今後の方向を示した。

一つは、これまでのような受講登録する番組、Educación a Distancia（遠隔地教育）であり、従来の職業教育、一般教育、語学教育のジャンルに加え、他機関からの依頼による特別教育の番組を考える、としている。これはスポンサーのある番組で、財政確立のための意味がある。

もう一つは、登録してテキストを購入したりしないで利用できる番組の強化である。

ホルダン局長はこの種の番組を Televisión Educativa (教育テレビ) と呼ぶ。紛らわしいが、この狭義の「教育テレビ」は、人間にとって良い価値観を積極的に打ち出すことを中心に、つぎのようなジャンルで企画したい、としている。

- ① 庶民の啓蒙教育
- ② 芸術・文化
- ③ 科学・テクノロジー
- ④ 女性問題
- ⑤ 生活環境教育

文化的な活動体であり、社会的に影響力の大きい放送機関にとって、もっとも重要なことは、経営の哲学であり、社会的な任務の自覚である。抽象的ではあるが、ホルダン局長の方針に TELEDUC の将来の方向が体系的なかたちで提起されている。

以上のような計画は本プロジェクトの多大な影響の成果の一つであり、また、カナダ・ケベック大学の教育番組への協力計画、あるいはイベロアメリカ教育テレビ連盟への積極的な参加など継続性、発展性は十分に確認されるものである。

このような状況から、プロジェクトの技術移転成果を活用した実績を高く評価すると共に、今後の一層の発展を考慮して、供与機材のスペアパーツ及びバージョンアップを目的とする機材、短期専門家、研修員受け入れなどを含めたアフターケア協力の必要性を認めるものである。

最後に、TELEDUC の将来計画とのかかわりだけでなく、チリの放送事業全体の問題でもあるチリ教育テレビの課題についてふれてみたい。

今回の調査のなかで、チりに児童・生徒の教科にあわせた番組がなく、子ども向けの教育番組が少ないことは、調査団のひとつの関心事であった。

これにはさまざまな理由が考えられる。

最も有力な教育番組の制作機関である TELEDUC が、成人教育に重点をおき、成人学生の登録料を重要な財源にしている、という状況も、チリの教育テレビ事情を規定している。教育テレビ番組に提供されている放送時間と財源が限られている現状では、経営的な観点からも重点的に対象をしばらざるをえないのであろう。

調査団が会見したチリ教育省のバジャグレス次官は、この点についての調査団の質問に答えて、教育番組の制作が各放送機関の自主的判断に委ねられていることを指摘、さらに民放では、児童向けの教育番組の制作は営利としては成り立ちにくいのではないかと述べたのが印象的だった。

しかし、子どもたちの成長、学習意欲にとって、放送をとりいれた教育の効果は大きく、

いずれチリでも学校向けの番組への要求が高まる時期がくるであろう。これは日本から番組の制作で協力した長期派遣の専門家が、繰り返しチリのカウンターパートに提起した問題であった。その努力によって、プロジェクト中に学校の児童向けに「チリの地理」シリーズが実現したが、同種の番組はあとに続いていない。この分野の本格的な番組制作は今後に残された課題となった。

調査の初日に訪問したチリ国際協力庁 (AGCI) のラウル・ヴェルガラ氏は、チリ社会の現状について、「チリはいま、近代化を達成しつつある先進国の側面と、遅れた途上国の側面との二つの顔がある」とのべて、調査団の理解を求めた。確かに、この二重性は今もチリ社会を覆っているかに見える。首都サンチャゴでは、豪壮なヨーロッパ風の建築の街が激しい排気ガスのスモッグにおおわれていた。また、チリ人口の4割が首都圏に集中する、という途上国的な様相を呈してもいた。チリの自然環境の破壊も進み、対策が強く意識されている。

貧富の格差は、南米では比較的小さいといわれるチリだが、サンチャゴを一步郊外へ出ると、都市部とは全く様相のちがう、バラックのような貧しい農家の家が並んでいる。チリ社会はなお階級社会であり、貧困の撲滅が社会の重要課題という声を、あちこちで聞いた。

また、民主主義の回復もここ数年の大きな課題であった。チリ国民は4年前、選挙で、つまり“紙とエンピツだけで”十六年にわたった軍政を倒したが、なお軍政下の癒されぬ傷が国民に残った。現在も行方不明者の家族の集会がもたれ、軍に殺害されたとみられる人びとにかかわる事実が発掘されている。真相の究明に、軍が陰に陽を抵抗する、という状況もある、という。

こうしたチリ社会のなかで、チリの現状、課題を、直接学校の子どもたちに考えさせる教育番組の必要性が意識されないのだろうか。激動の政治的経験を積み、高い意識をもつと思われるチリ国民が、直接子どもに働きかけ、主体的な子どもを育てるのに役立つ映像教材を求める時がくるかも知れない。映像のもつ衝撃力、喚起力はきわめて大きいからである。

チリの識字率は、南米で随一であり、教育制度も比較的整っている、と言われる。しかし、調査団が訪ねたエル・レマンソ小学校は、教室や教師が足りないせいか、午前と午後の二部授業であった。また、VTR 機器があってもテープが全く無いなど、教材、教具の絶対的不足がうかがわれた。こうした地方の貧しい地域の子どもたちに、豊かな映像の教科番組——社会科や理科などの全国水準の内容を持つ——が送りだされることの意義は計り知れない。それをいっせいに実施できるメディアは、放送において他にないのである。

こうした番組の必要がさげられる時代に、いったいどの放送機関が、この課題を担うのだろうか。いずれにせよ、放送機関の如何を問わず、番組制作者が、特に貧しい地域で学ぶ子

どもたちの学習状況に、どれだけ想像力を働かせることができるかが、重要な意味をもつにちがいない。

同時に、財源や制度的保障の面からみて、これは TELEDUC だけでなく、チリの放送事業全体の課題でもあり、教育番組にスポンサーがつくかどうかの問題も含め、チリ国民の将来の選択の問題となるだろう。

## 2-7 供与機材の使用状況及び保守・管理状況

TELEDUC はチリ教育テレビプロジェクトによって1988年から1990年に供与された機材一式を TVuc の協力の下、保守運用に当たって来た。

テレビ局として20数年以上のキャリアをもつ技術集団の放送技術設備の技術管理能力は、局内視察のなかでつぶさに見た局内の技術設備の整然とした運用状態は元より、サンチャゴ市内で放送されている受信 TV 画像の品質からも推察出来たように、完全な運用保守体制がとられている。TVuc の技術スタッフは、最近の世界的なテレビジョン技術のデジタル化の進展やハイビジョン放送等世界の技術動向を念頭に置きながら、迫りくる次のステップにそなえ、常に最新の技術動向を勉強し技術導入の諸施策を考えている。TVuc 報道部門の技術設備は、一部デジタル化した映像処理装置の導入を図る等直前に迫るデジタル化の時代に遅れをとらないような姿勢が伺えた。

このような技術革新の激しい現在の状況下のなかで、プロジェクトスタートから5年を経たわけであるが供与機材の稼働率による機器の信頼性が確保されているかを中心に調査した。

### (1) テレビ中継車 (OB-VAN)

TELEDUC にプロジェクト当初から供与されたが、使用の頻度は多いとは言えない。搭載機器である CCD カメラ・CCU 装置、VTR、編集器等動作は良好であり車両本体等の整備状況も良好である。機器の取り扱い、丁寧で良く管理されている。

### (2) 編集システム

TVuc にプロジェクト当初から供与され、常時フル稼働状態で使用している。現在 TELEDUC の教育番組が毎日の定時放送となって以来、番組編集作業量が増大し要員を夜勤にシフトする等して編集作業に対応しているが、現在のリニア編集装置では処理能力には限界がある。

編集システムの主要構成機器である VTR 装置の磨耗故障に備えなければならない。特に使用頻度が増すと回転機構部、ドラムアッセンブリー、ビデオヘッド等の消耗品の補給がシステムの維持の重要なポイントとなる。今のところ問題点は起きていないが、

運用時間数に対して定期補修をする等信頼性の管理上補強策が必要である。

(3) 調査用車両

TELEDUCにプロジェクト当初から供与され、常時活用されている。搭載連絡用無線機器、車両本体等の整備状況も良好である。

(4) 番組調査研究用ビデオ・モニター機器

TELEDUC、TVucにそれぞれプロジェクト当初から供与され、常時活用されている。汎用市販VTR機器、TVモニター等良好に動作している。

(5) 教材用教育番組（ビデオテープ233本）

TELEDUCにプロジェクト当初から供与され、編集室近くの書棚に1式格納され、教育番組製作のスタッフらにとってモデル・参考資料的位置付けである。モニタリング指定校での教師らの意向として多くの教育番組を児童・生徒らと視聴したいなど要望もあり、今後ダビングして地方でも活用するような体制をとるべく勧めた。

(6) コンピュータ・グラフィクスシステム (CG)

TELEDUCにプロジェクト当初から配備され、常時フル稼働している。32ビットのCPUを使ったワークステーションによる3次元アニメーションを日本製のソフトウェアライブラリーで構築している。

主にTELEDUCの教育番組のためのグラフィクスや受講番組コース等の紹介用プレゼンテーションのためのグラフィクス等に主力機器として使われている。この他に米国製の2次元アニメーションも番組の効果的、特殊効果等、演出の意図する映像表現に活用されて来た。この他にマネージメントデータ管理用に使われているパーソナルコンピュータ1式がある。これらのシステム周辺装置として主記憶装置である光磁気ディスク、カラービデオプリンターカラースキャナー、ディジタイザー、補助記憶用のハードディスク等がある。

この内の主記憶装置であるMO(光磁気ディスク)が時々書込みエラーを起こすなどトラブルを生じている。カラープリンターも一部補修せずに故障中のものがある。

当時としてはかなりの機能であったCGが、この数年の間のグラフィクス機能の発展は目覚ましいものがあり現在は陳腐化の様相を呈している。現行の2次元グラフィクスの制作処理時間が長くまた、3次元グラフィクスの表現力、処理速度にも問題がありCG全体システムとしての処理能力・表現力にたいして不満が顕在化してきている。この事

はCGを使いこなすTELEDUCのスキルが向上したことも意味するがCGを取り巻く外部環境や、他の放送局のCG分野の活用が顕著に現われて来たことにもよる。

現在のTELEDUCにおける教育番組の時間枠の増大や番組の演出意図に合致するきめ細かい高級な表現要求に速やかに応えていくには本CGのアーキテクチャでは限界がある。今後も厳しさを増す経営環境の下、チリTV放送界にあってTELEDUCがCGによる教育番組の製作に有効な演出表現技術の先端を担い、競争力を維持してゆくためにも機能充実のためのアフターケアを必要としている。

#### (7) 簡易編集システム

TVucにプロジェクト開始翌年の1989年に配備され、常時フル稼働している。動作状態良好、機能は主に外部で取材したオリジナルVTR番組素材の編集に使う。このままでは完全送出番組とはならない。更に映像効果、音声効果の加工を加えて完プロ番組とする工程が必要である。VTR編集の基本的システムで荒編集に使い順次完成度をあげるプロセスを取り制作に時間を要する。逆にニュース送出等のあまり加工を必要としない番組には迅速に対応可能で効果を発揮する。TVucの現行の番組制作体制では使い勝手がフィットせず、報道部門では高速処理出来るデジタル編集処理でニュース送出をしている。現況下ではTELEDUCの教育番組制作用としては、補強策が必要である。

#### (8) その他番組制作用単体機器

TVucにプロジェクト開始翌年の1989年に配備され、常時フル稼働している。VTR(3/4インチ)、インターカム、ベータカムVTR、カメラペダスタルドーリー(可動支持台)等番組制作の機動力増強のため配備された。動作状態良好問題点なし。

#### (9) デジタルビデオエフェクター(デジタル映像効果装置)

TVucにプロジェクト開始翌々年の1990年に配備され、常時フル稼働している。

簡易編集システムに機能補強策としてデジタル映像効果装置を追加装備したものと考える。

機器の動作状態は良好問題点なし。

#### (10) 2次元アニメーションシステム

TVucにプロジェクト開始翌々年の1990年に配備され、常時フル稼働している。

CGシステムに機能補強策として追加配備したものと考える。

機器の動作状態は良好問題点なし。制作処理時間が長いのが難点である。



## (II) スペアパーツ

TVucにプロジェクト開始翌々年の1990年にVTR機器の予備品を中心に配備された自助努力により良く管理されており適切な補修がされている。

番組制作における主要機器は編集システム等も含めてもVTRが圧倒的に多数を占めており、TVカメラと違い機械的な可動部分を有し摩耗故障に備える体制が必要である。プロジェクト当初と違い圧倒的に増大する番組制作量に対して、また今後数年先にはデジタル化の進展に伴い保守品種となるであろうこれらVTR機器のスペアパーツの確保のてこ入れが今後必要である。



### 3 アフターケア協力の基本計画

#### 3-1 機材供与計画

2-2～2-7項の報告に述べられているように TVuc の協力のもと TELEDUC はチリ教育テレビプロジェクトによって技術移転が効率的になされ本プロジェクト終了後も全体として順調に推移発展し大きな成果を上げている。この中ではアフターケア協力実施の適格性は十分に認められるところであり、本機材供与計画は TELEDUC、TVuc に供与した機材の技術革新に見合った機能向上を施し、教育番組制作の効率的生産を目指し、番組制作の時間枠増加に対応した処理能力の向上に貢献するものとする。今後展開する厳しいチリ放送界の外部環境に対して十分な競争力に資する事により将来一層の発展と成果が期待できる。

なお、地方支部活動に必要な機材の要望もあったが、プロジェクトの技術協力分野の発展性という観点から対象とはしないことをチリ側も了解した。

機材名	数量	ランク
(1) VTR 補修用スペアパーツ 回転機構部の子備品、ドラムアッセンブリー、ベルト、 ローラー、リング、ピンチローラ他 電気系統消耗品 映像ヘッド、音声ヘッド他	1式	1
(2) コンピュータグラフィクス (CG) システム機能向上 ワークステーション 外部周辺装置 (カラーディスプレイ含む) 外部主記憶装置 インターフェイス装置 ソフトウェアライブラリ	1式	2
(3) 編集装置機能向上 デジタル編集装置 (ノンリニア編集装置) 外部周辺装置 (カラーディスプレイ含む) 外部主記憶装置 インターフェイス サポートソフトウェア	1式	3

ランク1、2、3は優先順位ではあるが、今後の放送を継続バックアップするためにも欠かせない機器である。

(1)～(3)については全て現地調達可能である。

### 3-2 短期専門家派遣計画

アフターケア協力の供与機材は、すべて現地調達する予定であり、据付も現地業者による。  
しかし、必要があれば、コンピュータ・グラフィクスと編集分野の据付ならびに操作指導のための短期専門家1名を派遣することを検討する。

### 3-3 研修員受け入れ計画

チリ側の日本への研修員受け入れ希望として、以下の分野・人数を申し出た。

1. コンピュータ・グラフィクス 1名
2. 編集 1名

これに対し、平成6年度の研修員の受け入れ枠を調整する時点で受け入れ可能と判断された場合、順次手続きに従い進める事とする。

## 附属資料

- ① ミニッツ
- ② 質問票
- ③ 質問票回答
- ④ 調査団入手資料
  - A. TELEDUC 説明パンフレット
  - B. チリ・カトリック大学テレビ局 (TVuc) 週間番組表
  - C. TELEDUC 放送番組名 (1991, 1992, 1993)
  - D. TELEDUC テキスト



① ミニッツ

MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE AFTERCARE  
SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE  
GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF CHILE ON THE AFTER CARE  
TECHNICAL COOPERATION PROGRAM FOR THE EDUCATIONAL  
TELEVISION PROJECT IN THE  
REPUBLIC OF CHILE


The Japanese aftercare survey team (hereinafter referred to as "the team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Mr. Makoto Yamaguchi visited the Republic of Chile from July 15 to 24, 1993 for the purpose of surveying the ways and means for implementing aftercare technical cooperation for the Educational Television Project (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of Chile, the Team observed the Project, exchanged views and had a series of discussions with the Chilean authorities concerned regarding implementation of aftercare technical cooperation for the Project.

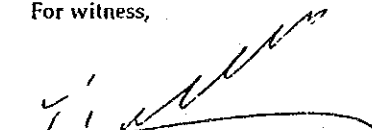
As a result of the survey and discussions, the Team and the Chilean authorities concerned agreed to recommend to their respective governments the matters referred to in the document attached hereto.

Santiago, July 22, 1993

山口 亮  
Mr. Makoto Yamaguchi  
Team leader  
Japanese aftercare survey team  
Japan International Cooperation Agency

  
Mr. Juan de Dios Vial Correa  
Rector  
Catholic University of Chile  
Republic of Chile

For witness,

  
Mr. Julio Valladares  
Subsecretary  
Ministry of Education  
Republic of Chile

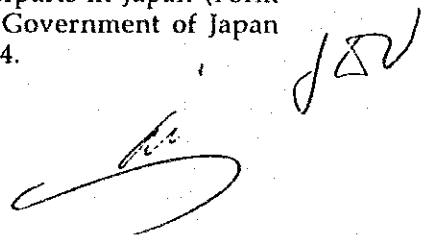
ATTACHED DOCUMENT

---

As a result of Survey and discussions, both sides confirmed the necessities of the aftercare technical cooperation for the Project.

1. The duration of the aftercare technical cooperation program will be approximately one (1) year beginning from April 1, 1994.
2. The Japanese side will take necessary measures to provide the equipments listed in the ANNEX within the budget allocated for this program in accordance with the priority given therein.
3. The Japanese side will dispatch short-term experts, if necessary, for the installation and instruction of the operation for the equipments according to the ANNEX.
4. The Chilean side will bear the expenses necessary for the custom duties, internal taxes, transportation, installation, maintenance and any other charge imposed on the equipments, referred to in above, in the Republic of Chile.
5. The Chilean side will provide transport facilities for the official works of the Japanese short-term experts in the Republic of Chile.
6. The Chilean side will assign the necessary number of Chilean counterpart personnel for the Japanese short-term experts.
7. The Chilean authorities concerned will submit the application forms for the provision of equipments (Form A4), for the training counterparts in Japan (Form A2, A3) and for the dispatch of experts (Form A1) to the Government of Japan through the diplomatic channel by the end of February, 1994.

4  
12

Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.



## ANNEX

---

### I. EQUIPMENT

#### PRIORITY

- 1) Spare parts for VTR equipment, Drum Assembly, Video Head and others
- 2) Computer Graphics system (to up grade existing computer graphics system donated in the project period)
- 3) Editing system (to up grade existing editing system donated in the project period)

### II. SHORT TERM EXPERTS

If necessary one (1) short-term expert will be dispatch for the installation and instruction of the operation for the following items.

- 1) Computer Graphic system.
- 2) Editing system.

### III. TRAINING

The Chilean Side requested two chilean counterparts training in Japan in the field of computer graphics and editing.

↓/ The team promised to convey the request to the Japanese authorities concerned. J&V

12

J & V  
→

## ② チリ教育テレビプロジェクトアフターケア協力に関する質問票

(原文：英文)

1. 教育テレビに対する国家方針
2. TELEDUC を含めた教育テレビに関する組織
3. 教育テレビ番組制作及び放送における大学テレビ放送局 (TVuc)、チリカトリック大学、教育省の役割 (付プロジェクト中の大学組織図)
4. TELEDUC の現在の状況
  - 1) 部門名の記入された TELEDUC の組織図及び各部門の担当活動、職員数(付プロジェクト中の組織図)
  - 2) プロジェクト中のカウンターパートの現在の配置状況 (付プロジェクト中のリスト)
  - 3) プロジェクト終了後の制作番組数、及び主な番組名とその視聴対象
  - 4) 週間・月間・年間 (1991・1992) の教育テレビ番組放送のスケジュール
  - 5) 出版テキスト数、主な題名
  - 6) 1990～1993年の予算 (付1988～1990年の予算)
  - 7) 技術移転分野の主な発展状況
    - ・教育テレビ番組企画制作
    - ・テレビ制作技術
    - ・コンピューター応用テレビ画像
    - ・教育テレビの調査・研究
5. 供与機材の使用状況、保守・管理 (付主要機材の一覧表)
6. 研修員の要望
  - 分野、人数、研修期間、研修内容
7. 機材の要望
  - 1) スペアパーツ (カテゴリーA)
  - 2) 修理不可能な機材の代替 (カテゴリーB)
  - 3) 新規導入機材 (カテゴリーC)
8. 問題点
9. その他

QUESTIONNAIRE  
ON THE AFTER-CARE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE EDUCATIONAL TELEVISION PROJECT  
IN THE REPUBLIC OF CHILE

1. Present national policy for the educational television
2. Organizations involved in the educational television , including  
TELEDUC
3. Function of the TVUC, the Catholic University of Chile and Ministry  
of Education in producing and broadcasting educational television  
program (Check and revise the attachment 1)
4. Present condition of the TELEDUC
  - 1) Organization chart of TELEDUC with the name of the  
departments and their main activities, and the number of staff  
members in each department (Check and revise the chart in the  
attachment 2, and add the main activities and the number of staff  
members)
  - 2) Present position of ex-counterparts of JICA Project (Put the  
position in the attachment 3)
  - 3) Number of educational programs produced after the JICA  
Project, and name of the main programs and their target group
  - 4) Schedule of educational television broadcasting by the week, the  
month and the year in the year of 1991 and 1992
  - 5) Number of the published textbooks and their main names
  - 6) Budget from 1990 to 1993 (Put figures in the attachment 4)
  - 7) Major technical development in the following fields after the  
JICA Project.  
"Educational Television Program Planning and Production"  
"Television Production Engineering"

"Computer Generated Television Images"

"Research and Survey on Educational Television"

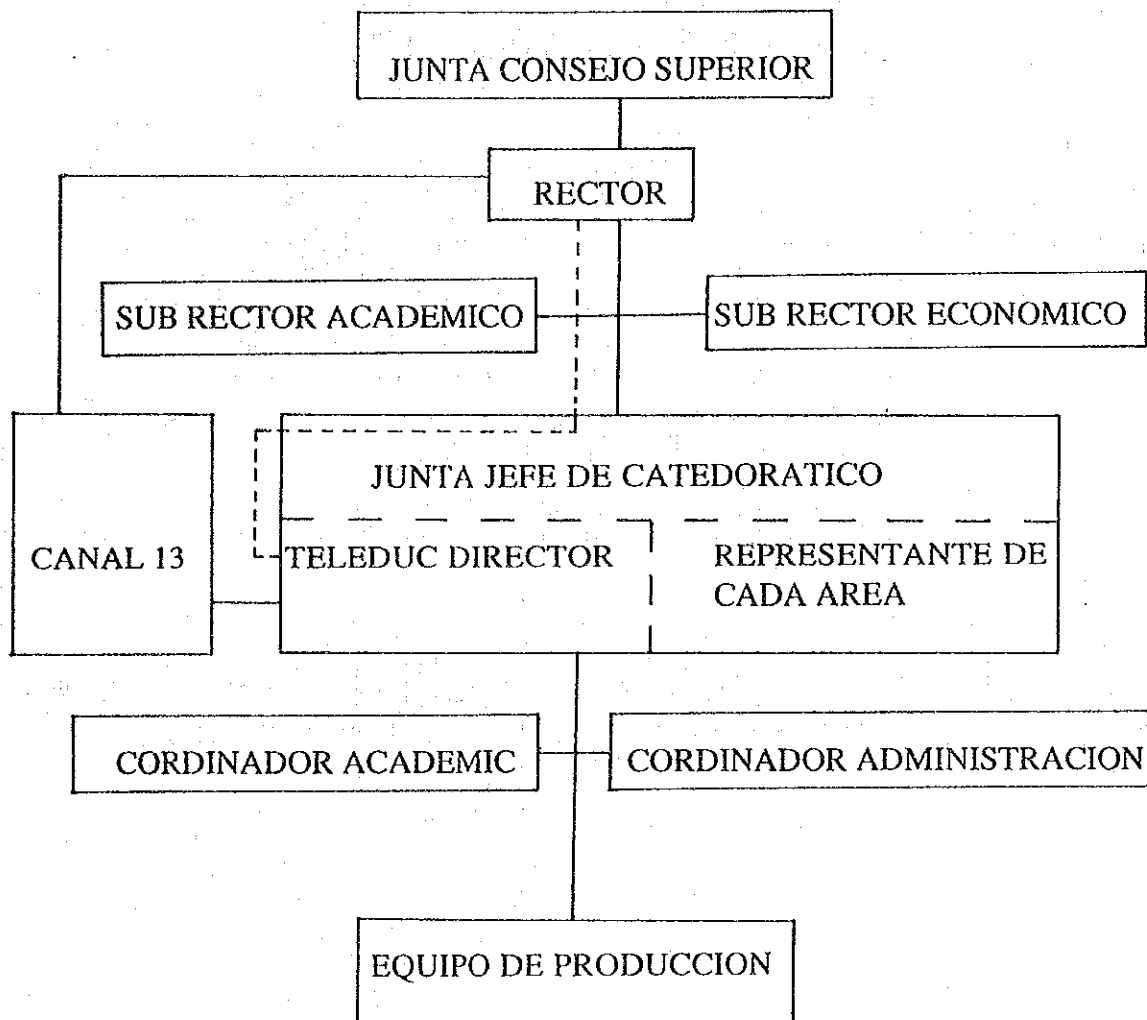
5. Usage, maintenance and management of the equipment provided by Japan during the project (fill in the attachment 5)
6. Request for training of Chilean personnel in Japan  
Field, Number, Period(week / month / year), Content of technical transfer
7. Request for provision of equipment with priority
  - 1) Spare parts (catégory A)
  - 2) Substitute equipment for defective equipment (category B)
  - 3) Newly introduced equipment (category C)
8. Problems(if any)
9. Others(if any)

チリ・カトリック大学の中におけるTELEDUCの位置付け

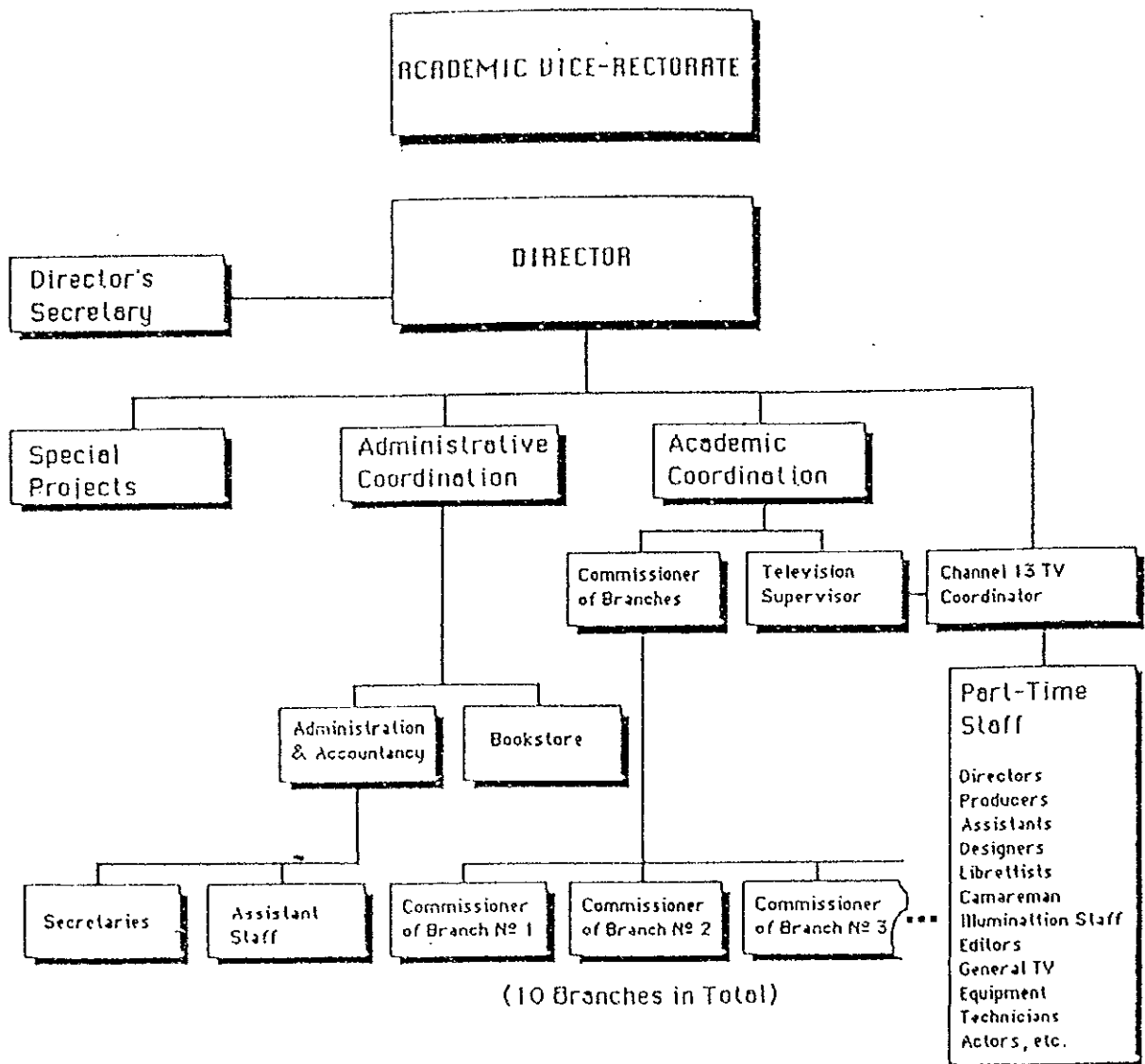
CATHOLIC UNIVERSITY OF CHILE  
UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

R/D The attached document : for the Catholic University Center for Distance  
Education ( TELEDUC )

ORGANIZACION DE LA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE



TELEDOC



The Educational Television Project

List of Chilean Counterpart and Administrative Personnel by R/D

1. Head of the Project (1)
2. Counterpart Personnel in the fields of
  - (1) Educational television program planning and production (4)
  - (2) Television production engineering (5)
  - (3) Computer generated television images (3)
  - (5) Research and survey on educational television (2)

List of Chilean Counterpart by Evaluation survey team Report in April 1991

NAME	FIELD /	DEP.	PERIOD	1991.4	(1993.7)
				↓	↓ Dep. Position
Alfonso Gomez *	C/G, Maneg.	Head	→88.8—●→90.8resignation 89.1		
Rodrigo Jordan		Head	90.10 →		
Ricardo de La Fuente*	Educ.TV	13ch	→88.8—●→ 88.11		
Begonia Bofill	Educ.TV	13ch	88.11→89.8resignation		
Jorge Braidot	Educ.TV	13ch	89.3→89.9change		
Gabriel Bravo *	Educ.TV	13ch	89.10 → ● 92.1		
Rafael Richard	TVeng.	13ch	→88.8 →		
Flores Cortes Sergio*	TVeng.	13ch	→88.8—●→ 88.11		
Luis Silva Tapia *	TVeng.	13ch	→88.8—●→ 90.1		
Alberto Claudio Araya*	TVeng. C/G	13ch	90.1 → ● 91.7		
Patricio Munos Espinoza*	TVeng.	13ch	→88.8 → ● 91.6		
Patricio del Rio	(camera)	13ch	90.9 → 91.8		
Jose M. Pina	(camera)	13ch	91.4 → 91.8		
Claudio Gomez *	C/G	TELEDUC	→88.8—●→ 90.2		
Luis Andres Meneses M.	C/G	TELEDUC	→88.8→89.6resignation		
Renato Pacheco *	C/G	TELEDUC	89.8 → ● 91.11		
Maria Paulina Domingues*	Res.Surv.	Prof.Univ.	→88.8—●→ 88.11		
Francisco Garces *	Res.Surv.	TELEDUC	→88.8—●→ 88.5		
Pilar Henriquez *	Educ.TV		→ ● 90.1		

( \* : Training in Japan )

PRESUPUESTO DE TELEDUC

	1988	1989 / Real	1990	1991	1992	1993
<b>EGRESOS</b>						
Adquisiciones	4.321	6.457 / 7.543	9.850			
Consumo	1.316	1.740 / 2.530	4.988			
Gastos Generales	5.338	4.331 / 6.143	7.734			
honorarios	2.932	4.200 / 1.586	4.383			
Impresion	20.201	26.750 / 28.279	30.439			
Mantencion y Seguro	1.378	1.822 / 5.958	3.914			
Produccion TV	4.503	5.954 / 5.235	15.382			
Produccion Editorial	2.496	3.300 / 3.345	4.906			
Sala Computacion	5.313	7.025 / 0	0			
Proveedores Libreria	10.482	13.860 / 19.272	20.501			
Remuneraciones	17.382	23.578 / 39.830	63.767			
Otros Gastos	0	4.300 / 2.638	8.499			
Sedes	4.141	7.095 / 3.779	5.827			
Servicios Academicos	2.912	3.850 / 4.410	5.703			
<b>TOTAL EGRESOS</b>	<b>83.164</b>	<b>114.262 / 130.548</b>	<b>185.891</b>			
<b>INGRESOS</b>						
Aportes, Convenios, Becas	3.472	18.748 / 19.369	17.799			
Sala de Compitacion	6.715	8.700 / 0	0			
Libreria	16.288	17.864 / 26.422	26.950			
Matriculas	29.766	37.680 / 50.449	69.131			
Otros	6.896	4.400 / 17.168	20.529			
Ventas "al por mayor"	7.519	7.150 / 4.344	7.150			
Presto. Operacion	5.089	6.216 / 6.388	12.353			
Presto. Remuneraciones	11.576	12.372 / 17.996	31.979			
<b>TOTAL INGRESOS</b>	<b>87.322</b>	<b>113.130 / 142.136</b>	<b>185.891</b>			
<b>SALDO</b>	<b>+4.158</b>	<b>-1.132 / +11.588</b>	<b>0</b>			

(Miles Pesos)



CHECK LIST OF USAGE AND MAINTENANCE OF PROVIDED EQUIPMENT No. 1

NO.	NAME OF EQUIPMENT	QUAN- TITY	MAKER	LOCATION	USAGE (always /sometimes)	CONDITION (good / bad)	PROBLEMS AND WAY TO RESOLUTION	INSTA- LLATION YEAR
1	OUTSIDE BROADCAST VAN SYSTEM	1 LOT						1988
								19
								19
								19
2	AUTOMATIC EDITING SYSTEM		SONY					1988
								19
								19
								19
3	LAND CRUISER STATION WAGON	2 UNITS	TOYOTA					1988
4	MONITER TV. VIDEO RECORDER	5 SETS	SONY					1988
								19
								19
5	VIDEO CASSETTE TAPES	233						1988
6	COMPUTER GRAPHIC SYSTEM	2 LOTS	MACINTOSH					1988
								19
								19
7	PERSONAL COMPUTER	2 SETS	MACINTOSH					1988
								19
								19
								19
								19
								19
								19
								19
								19
								19
								19

CHECK LIST OF USAGE AND MAINTENANCE OF PROVIDED EQUIPMENT No. 2

NO	NAME OF EQUIPMENT	QUAN- TITY	MAKER	LOCATION	USAGE (always /sometimes)	CONDITION (good / bad)	PROBLEMS AND WAY TO RESOLUTION	INSTA- LLATION YEAR
8	AUTOMATIC EDITING CONTROL UNIT	1	SONY					1989
								19
								19
								19
9	VTR 3/4 (BVU.BKU)	1	SONY					1989
								19
10	INTERCOMMUNICATION SYSTEM	1	CLEARCOM					1989
								19
11	BETACAM SP	1	SONY					1989
								19
								19
12	BATTERY RIGHT	2	ANTON B.					1989
13	CAMERA PEDESTAL DOLLY	3	SYOTOKU					1989
								19
								19
								19
14	MULTIEFFECTS DIGITAL PROCESER	1	SONY					1990
								19
								19
15	DIMENSIONAL ANIMATION SYSTEM	1	MACINTOSH					1990
								19
								19
	OTHERS							19
								19



③ 質問票回答

PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

QUESTIONNAIRE  
ON THE AFTER-CARE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE EDUCATIONAL TELEVISION PROJECT  
IN THE REPUBLIC OF CHILE

**1. Present national policy for the educational television.**

In strict terms there is no formal policy for educational television. There is a National Television Council (it depends from the Ministry of Education) which encourages the various television stations to produce and broadcast educational television programs. There use to be a formal law that obliged television stations to broadcast at least two hours of educational television a week, but at present that law is no more in effect. In this respect TELEDUC is a response to the interest of the Catholic University on educational television as a crucial means to help the development of the Chilean society.

**2. Organisations involved in the educational television, including TELEDUC.**

As it can be deduced from the previous paragraph there is no formal organisation for educational television depending from the government. In this situation each television station develops its own educational television. None of the other two national broadcasting television enterprises (*Televisión Nacional and Megavisión*) apart from TVUC (*Canal 13*) have formal interest in educational television. They only produce and broadcast some programs for children and documentaries which do not represent, on average, more than 3% of their programming.

TELEDUC is a self-governing body of the Catholic University of Chile (it depends directly from the highest executive authority of the University: the Rector) and is devoted exclusively to produce educational television. For this objective it relies on its 51 full-time staff and the direct participation of TVUC production facilities and the Faculty members of the various schools of the University.



## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

### 3. Function of TVUC, the Catholic University of Chile and Ministry of Education in producing and broadcasting educational television

As it was explained in the previous paragraph the Catholic University provides the "umbrella" for TELEDUC. As faculty members and TVUC also depend from it, there is a special mandate from the Rectorate that both -TVUC and Faculty members- must collaborate with TELEDUC in fulfilling its objective of producing and broadcasting the best possible educational television for the widest variety of audience.

There is no formal role of the Ministry of Education although all TELEDUC programming for schools is done according to the Ministry of Education requirements. The Ministry also provides important funds to TELEDUC in order to produce special programs aimed to school teachers. This funding has allowed more than 45.000 teachers and 1.500.000 school students experience educational television through TELEDUC.

### 4. Present condition of the TELEDUC

1) Organisation chart of TELEDUC with the name of the departments and their main activities, and the number of staff members in each department (Check and revise the chart in the attachment 2, and add the main activities and the number of staff members)

A new chart is provided in attachment 2

Main activities of each unit:

Academic sub-direction

It is in charge of designing the different courses that will be delivered to the students. It also designs the system by which the students will be evaluated

Student affairs sub-direction

This a newly created unit and its main task is keeping track of the 25.000 students enrolled in TELEDUC.



## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

### Television sub-direction

This unit is in charge of the television production and broadcasting of the programs

### Finance and management sub-direction

As it is obvious from the title this unit is in charge of the finances and management of TELEDUC

### **2) Present position of ex-counterparts of JICA Project (Put the position in the attachment 3)**

Save for Claudio Gómez, who resigned in 1992, the rest of the people are still working in the positions indicated in attachment 3.

### **3) Number of educational programs produced after JICA Project, and name of the main programs and their target group.**

- 1.- Introducción a la Fotografía Profesional - general audience - 180 min - (1991)
- 2.- Explorando el Mundo del Arte - adult training- 200 min. (1991)
- 3.- Doce Desafíos para el Profesor Jefe - adult training - 190 min. (1991)
- 4.- Creación de Nuevos Negocios - general audience - 180 min. (1991)
- 5.- Explorando el Mundo de la Música - adult training - 180 min. (1992)
- 6.- De Acuerdo -general audience- 200 min. (1992)
- 7.- Estrategias de Estudio y Aprendizaje Escolar - Adult training- 190 min. (1992)
- 8.- Astronomía - general audience - 180 min. - (1992)
- 9.- Como hacer un Video de calidad profesional - general audience 240 min. (1993)
- 10.- Formulación de Proyectos para el Desarrollo Comunal - general audience- 200 min.(1993)



## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

### 4) Schedule of educational television broadcasting by the week, the month and the year in the year of 1991 and 1992

During both years television programs were broadcasted from May 1 to November 30 every Tuesdays, Thursdays, Saturdays and Sundays of every week. Each program lasted for two hours making a total of 480 minutes a week during seven months a year.

### 5) Number of the published textbooks and their main names

- 1.- Introducción a la Fotografía Profesional - 223 pp.
- 2.- Explorando el Mundo del Arte - 278 pp.
- 3.- Doce Desafíos para el Profesor Jefe - 288 pp.
- 4.- Creación de Nuevos Negocios - 237 pp.
- 5.- Explorando el Mundo de la Música - 154 pp.
- 6.- De Acuerdo - 225 pp.
- 7.- Estrategias de Estudio y Aprendizaje Escolar - 140 pp.
- 8.- Astronomía - 282 pp.
- 9.- Como hacer un Video de calidad profesional - 143 pp.
- 10.- Formulación de Proyectos para el Desarrollo Comunal - 130 pp.

### 6) Budget from 1990 to 1993 (Put figures in the attachment 4)

Figures have been included in attachment 4

### 7) Major technical development in the following fields after the JICA Project.

#### "Educational Television Program Planning and Production"

The biggest development after the JICA Project has been in this area. The success of TELEDUC has increased dramatically after the impulse given by the JICA Project. This development can be demonstrated by signaling just one factor. In 1988 when the JICA Project started TELEDUC had 6.000 students a year. During 1988 to 1990 the amount of students increased to 17.000 a year. After that, in 1991 and 1992, this figure reached the staggering amount of 25.000 students a year. This increase has mainly originated in the betterment of the quality of the television programming which is now recognised as the best educational television in Chile.



## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

Due to this development the University together with TVUC agreed to enlarge the air time of TELEDUC increasing its programs from four days a week to seven. This means that in 1993 TELEDUC is producing a daily program from May 1 to November 30. This has required to add a third production team to the two teams already working for TELEDUC. This means 5 more people working full-time in Television Planning and Production.

An entire new series has been developed and TELEDUC has added 15 minutes of programming to its daily program.

It is necessary to add that TELEDUC programs have earned two international prizes: the Japan Prize Special Commendation and the Silver Prize by SONY. It has also received attention by other Latin American countries (Argentina, Perú and Uruguay) together with a special recognition from the Spanish Government.

Although this has been very good for TELEDUC it has produced a problem in editing facilities as the equipment donated by JICA during the Project (Two SONY editors 900 and 600) is not enough to attend this new requirements. This issue will be presented in the request for provision of equipment (question 7).

### "Television Production Engineering"

The engineering unit of TVUC has taken perfect care of the equipment donated during the JICA Project and the best proof of this is that no spare parts (save for a small part in the computer SONY News) are required.

### " Computer Generated Television Images"

Progress has continued in the use of the computer facilities donated by JICA to a very sophisticated level. It is recognised in Chilean television that some of the best computer generated television images are developed by TELEDUC staff. Because of this and the fast development of computer hardware is that the main request to be stated in this questionnaire (question 7) is on computer equipment.



## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

### " Research and Survey on Educational Television"

Research on educational television has continued and several research projects are under way. Some of them financed by the Ministry of Education, others by the National Fund for Science and Technology.

The research team in charge of this work has published various articles on the subject and has participated in seminars related to educational television.

#### 5. Usage, maintenance and management of the equipment provided by Japan during the project (fill in the attachment 5)

Attachment 5 has been filled as required.

#### 6. Request for training of Chilean personnel in Japan

Field, Number period (week, month, year). Content of technical transfer

##### Computer Generated Television Images

one person - one month aprox. - November, 1994 - Computer TV images

##### Television Planing and Production

one person - one month aprox. - November, 1994 - television editing

#### 7. Request for provision of equipment with priority

- |   |              |
|---|--------------|
| 1) Spare parts                                  | (category A) |
| 2) Substitute equipment for defective equipment | (category B) |
| 3) Newly introduced equipment                   | (category C) |

As it was stated in question 4.7 there is urgent need in two main areas

##### 1.- "Computer Generated Television Images"

Undoubtedly the speed of development in computer hardware exceeds everything that may be imagined. Three years ago when the system donated by JICA was installed it was the most modern system in Chile. At present new models can generate images much faster with easier contact between operator and machine. The present needs of TELEDUC, due to its expansion, requires of much faster and user-friendly technology that the one available. This does not mean that the





## PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE

present equipment is useless. On the contrary, a combination of computers can produce a more efficient system of producing images.

In this sense a computer system that greatly diminishes "processing time" is of the most urgent need to TELEDUC at present.

In this sense the training required in question 6 is related precisely to this equipment requirement.

### 2.- "Educational Television Program Planning and Production"

As it was described before TELEDUC is now producing 40% more of television programs which has meant an increase in production facilities requirements. TVUC has granted these facilities (personnel, studio time, etc.) but is unable to give more editing facilities. Present TELEDUC editing personnel is working on extended shifts in order to cover the present needs. The crucial problem regards editing facilities.

Again the training required is for an editor to go to Japan in order to learn about the latest in editing practices and the special aspects of a new equipment.

It would be extremely good for TELEDUC to receive the new digital editing system equipment.

### 3.- Minor equipment for TELEDUC offices along the country

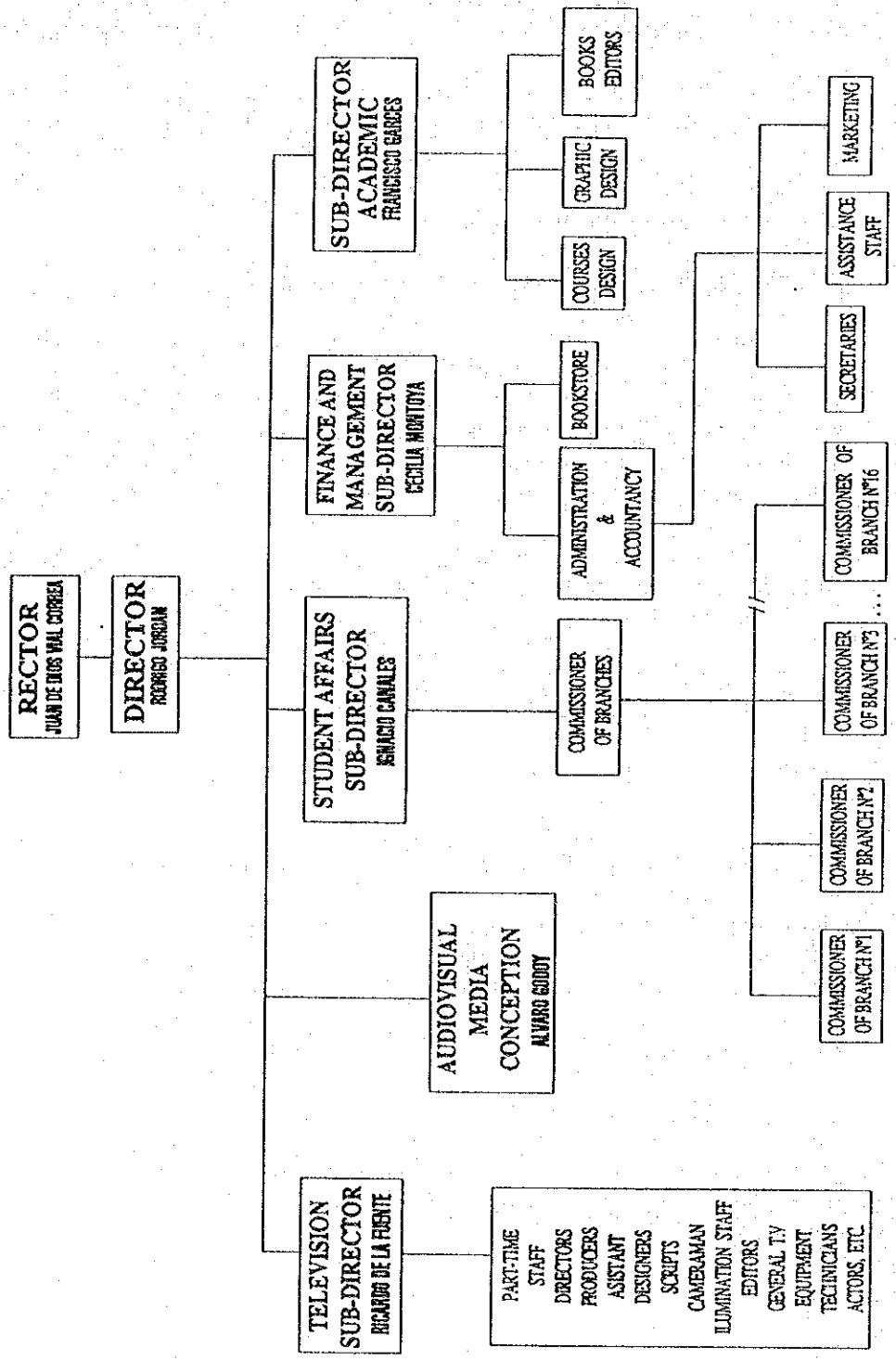
TELEDUC has created 16 new offices along the country to attend its growing number of students. It used to have offices in collaboration with the Ministry of Education but the huge number of students has required the creation of a new organisational unit in TELEDUC (Student affairs sub-directorate) with its own offices. These offices will allow students to receive face to face tutorials on the subjects being broadcasted by TVUC. They are supposed to have enough facilities for the students to complement their learning process.

In this regard a further area of collaboration would be the minimum equipment needed in these 16 offices consisting of two small personal computer plus printer, a fax machine and of course a television set with its corresponding VCR.

**8. Problems (if any)**

**9. Others (if any)**

# Teleduc Administration Chart



TOTAL OF FULL - TIME PERSONEL IN TELEDUC = 51

Attachment 3

List of Chilean Counterpart and Administrative Personnel by R/D

1. Head of the Project (1)
2. Counterpart Personnel in the fields of
  - (1) Educational television program planning and production (4)
  - (2) Television production engineering (5)
  - (3) Computer generated television images (3)
  - (5) Research and survey on educational television (2)

List of Chilean Counterpart by Evaluation survey team Report In April 1991

NAME	FIELD /	DEP.	PERIOD	1991.4	(1993.7)
Alfonso Gomez *	C/O,Maneg.	Head	→88.8	●89.1	→90.8resignation
Rodrigo Jordan		Head			90.10
Ricardo de La Fuente*	Educ.TV	13ch	→88.8	●88.11	→
Begonia Bofill	Educ.TV	13ch			88.11→89.8resignation
Jorge Braidot	Educ.TV	13ch			89.3→89.9change
Gabriel Bravo *	Educ.TV	13ch			89.10 → ●92.1
Rafael Richard	TVeng.	13ch	→88.8		→
Flores Cortes Sergio*	TVeng.	13ch	→88.8	●89.11	→
Luis Silva Tapia *	TVeng.	13ch	→88.8	●90.1	→
Alberto Claudio Araya*	TVeng. C/O	13ch			90.1 → ●91.7
Patricio Munos Espinoza*	TVeng.	13ch	→88.8		→ ●91.6
Patricio del Río	(camera)	13ch			90.9 → 91.8
Joso M. Pina	(camera)	13ch			91.4 → 91.8
Claudio Gomez *	C/O	TELEDUC	→88.8	●90.2	→
Luis Andres Meneses M.	C/O	TELEDUC	→88.8		→89.6resignation
Renato Pacheco *	C/O	TELEDUC			89.8 → ●91.11
María Paulina Domingues*	Res.Surv.	Prof.Univ.	→88.8	●89.11	→
Francisco Garces *	Res.Surv.	TELEDUC	→88.8	●89.5	→
Pilar Henriquez *	Educ.TV				●90.1

( \* : Training in Japan )

PRESUPUESTO DE TELBUDUC

	1988	1989 / Real	1990	1991	1992	1993
<b>EGRESOS</b>						
Adquisiciones	4.321	6.457 / 7.543	9.850	10.272	8.950	10.740
Consumo	1.316	1.740 / 2.530	4.988	5.983	6.380	7.235
Gastos Generales	5.338	4.331 / 6.143	7.734	7.852	8.200	10.800
honorarios	2.932	4.200 / 1.586	4.383	9.402	8.125	14.145
Impresion	20.201	26.750 / 28.279	30.439	49.741	53.720	35.000
Mantencion y Seguro	1.378	1.822 / 5.958	3.914	8.160	5.210	7.630
Produccion TV	4.503	5.954 / 5.235	15.382	16.210	18.472	17.757
Produccion Editorial	2.496	3.300 / 3.345	4.906	9.180	15.040	13.389
Sala Computacion	5.313	7.025 / 0	0	0	0	0
Proveedores Libreria	10.482	13.860 / 19.272	20.501	17.140	41.900	8.435
Remuneraciones	17.382	23.578 / 39.830	63.767	69.191	73.801	85.830
Otros Gastos	0	4.300 / 2.638	8.499	12.820	15.320	51.420
Sedes	4.141	7.095 / 3.779	5.827	7.247	41.748	89.678
Servicios Academicos	2.912	3.850 / 4.410	5.703	7.530	7.590	19.823
<b>TOTAL EGRESOS</b>	<b>83.164</b>	<b>114.262 / 130.548</b>	<b>185.891</b>	<b>230.728</b>	<b>304.456</b>	<b>371.882</b>
<b>INGRESOS</b>						
Aportes, Convenios, Becas	3.472	18.748 / 19.369	17.799	80.000	100.000	80.000
Sala de Computacion	6.715	8.700 / 0	0	0	0	0
Libreria	16.288	17.864 / 26.422	26.950	19.229	50.000	11.000
Matriculas	29.766	37.680 / 50.449	69.131	61.141	100.000	200.000
Otros	6.896	4.400 / 17.168	20.529	51.875	20.000	58.000
Ventas "al por mayor"	7.519	7.150 / 4.344	7.150	8.100	0	0
Presto. Operacion	5.089	6.216 / 6.388	12.353	8.235	1.338	0
Presto. Remuneraciones	11.576	12.372 / 17.996	31.979	14.588	43.484	34.929
<b>TOTAL INGRESOS</b>	<b>87.322</b>	<b>113.130 / 142.136</b>	<b>185.891</b>	<b>243.168</b>	<b>314.822</b>	<b>383.929</b>
<b>SALDO</b>	<b>+4.158</b>	<b>-1.132 / +11.588</b>	<b>0</b>	<b>+12.440</b>	<b>+10.366</b>	<b>+12.047</b>

(Miles Pesos)

CHECK LIST OF USAGE AND MAINTENANCE OF PROVIDED EQUIPMENT NO. 1

Attachment 5-1

NO.	NAME OF EQUIPMENT	QUAN- TITY	MAKER	LOCATION	USAGE (always sometimes)	CONDITION (good / bad)	PROBLEMS AND WAY TO RESOLUTION	INSTA- LLATION YEAR
1	OUTSIDE BROADCAST VAN SYSTEM	1 LOT		TUUC	SOMETIMES	good		1988 19 19 19
2	AUTOMATIC EDITING SYSTEM		SONY	TUUC	always	good	SHORTAGE DUE TO MEN TELEVIC SCHEDULE	1988 19
3	LAND CRUISER STATION WAGON	2 UNITS	TOYOTA	UNIVERSITY	always	good		1988
4	MONITOR TV, VIDEO RECORDER	5 SETS	SONY	UNIVERSITY TUUC	always always	good good		1988 19 19
5	VIDEO CASSETTE TAPES	233		TUUC	SOMETIMES	good		1988
6	COMPUTER GRAPHIC SYSTEM	2 LOTS	MACINTOSH	TUUC	always	good		1988 19
7	PERSONAL COMPUTER	2 SETS	MACINTOSH	TUUC	always	good		1988 19 19 19 19 19 19 19

CHECK LIST OF USAGE AND MAINTENANCE OF PROVIDED EQUIPMENT

NO.	NAME OF EQUIPMENT	QUANTITY	MAKER	LOCATION	USAGE (always / sometimes)	CONDITION (good / bad)	PROBLEMS AND WAY TO RESOLUTION	INSTALLATION YEAR
8	AUTOMATIC EDITING CONTROL UNIT	1	SONY	TVUC	always	good		1989
								19
								19
								19
9	VTR 3/4 (BYUJIKU)	1	SONY	TVUC	always	good		1989
								19
10	INTERCOMMUNICATION SYSTEM	1	CLEARROOM	TVUC				1989
								19
11	BETACAM SP	1	SONY	TVUC	always	good		1989
								19
								19
12	BATTERY RIG	2	ANTON B.	TVUC	always	good		1989
13	CAMERA PEDESTAL DOLLY	3	SYOTOKU	TVUC	always	good		1989
								19
								19
14	MULTIFECTS DIGITAL PROCESOR	1	SONY	TVUC	always	good	need to update due to obsolescence in hardware	1990
								19
15	DIMENSIONAL ANIMATION SYSTEM	1	MACINTOSH	TVUC	always	good		1990
								19
								19
	OTHERS							19
								19

④ 調査団入手資料

A. TELEDUC説明パンフレット

B. チリ・カトリック大学テレビ局 (TVuc) 週間番組表

C. TELEDUC放送番組名 (1991, 1992, 1993)

D. TELEDUCテキスト





## A. TELEDUC説明パンフレット

### QUE ES TELEDUC

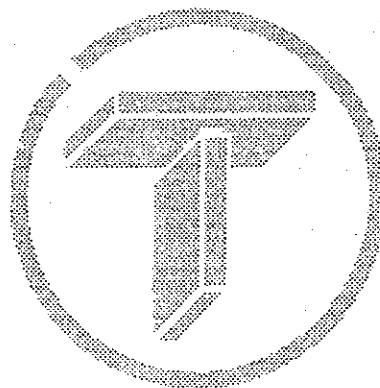
TELEDUC es el nombre con que se conoce el Sistema de Educación a Distancia de la Pontificia Universidad Católica de Chile, que se difunde a través de su Corporación de Televisión.

TELEDUC ofrece cursos a distancia orientados a un vasto y variado público. Su labor se canaliza, fundamentalmente, a través de programas de televisión y textos de estudio diseñados para cada materia.

La programación de TELEDUC refleja un especial interés por cubrir materias que favorezcan el desarrollo integral de la persona y que contribuyan a mejorar sus oportunidades laborales. Se busca, asimismo, una programación balanceada entre temáticas vinculadas al quehacer científico-tecnológico y otras asociadas con las ciencias sociales, las humanidades y el arte.

Las materias se organizan en cuatro áreas preferenciales:

- Perfeccionamiento docente y apoyo al sistema escolar.
- Capacitación laboral.
- Idiomas extranjeros.
- Formación general.

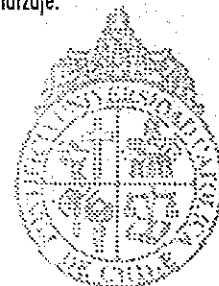
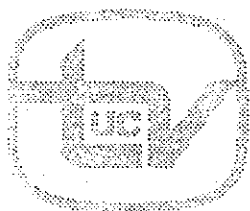


## QUE ES TELEDUC

La Dirección de Educación a Distancia realiza sus cursos mediante la participación conjunta de académicos de distintas Facultades de la Universidad Católica y personal especializado del equipo TELEDUC.

Cuando una persona se matricula en un curso de TELEDUC, su experiencia educacional comprende:

- Programas de televisión, emitidos por la Corporación de Televisión de la Universidad Católica, Canal 13.
- Texto de estudio, en el cual se desarrollan las principales materias del curso. El estudiante recibe este material al momento de matricularse.
- Cuaderno del estudiante, que presenta las instrucciones para seguir el curso y orientados para su mejor aprovechamiento.
- Evaluación formal del rendimiento del estudiante, mediante pruebas remitidas por correo, trabajos prácticos y un examen presencial.
- Diploma conferido por la Pontificia Universidad Católica de Chile, a todo estudiante que apruebe el proceso de evaluación.
- Apoyo tutorial al estudiante, para favorecer la interactividad en el proceso de aprendizaje.



## ÁREAS DE TRABAJO

La programación de cursos de TELEDUC refleja un especial interés por entregar herramientas que favorezcan el desarrollo integral de la persona, y contribuyan a mejorar su calidad de vida y sus oportunidades laborales.

Cuatro son las series básicas en las que se organiza nuestra programación:

- La serie de perfeccionamiento docente y apoyo al sistema escolar, aborda materias que complementan el currículum formal, entregando al profesor atractivos materiales para trabajar en la sala de clases, junto a sus alumnos.
- La serie de capacitación laboral, busca entregar conocimientos y habilidades de orden técnico, en todas aquellas áreas que permitan a las personas aumentar sus destrezas laborales y mejorar sus oportunidades de trabajo.
- La serie de idiomas extranjeros, cuya finalidad es llevar a hogares y escuelas la oportunidad de aprendizaje de una nueva lengua, en un nivel inicial que permita al estudiante comunicarse con hablantes de otros idiomas.
- La serie de formación general, pretende extender a la comunidad disciplinas desarrolladas por la Universidad en diversas áreas del conocimiento, así como aportar criterios formativos y valóricos respecto a grandes temáticas de interés nacional.

Perfeccionamiento docente y apoyo al sistema escolar.

Capacitación laboral.

Idiomas extranjeros.

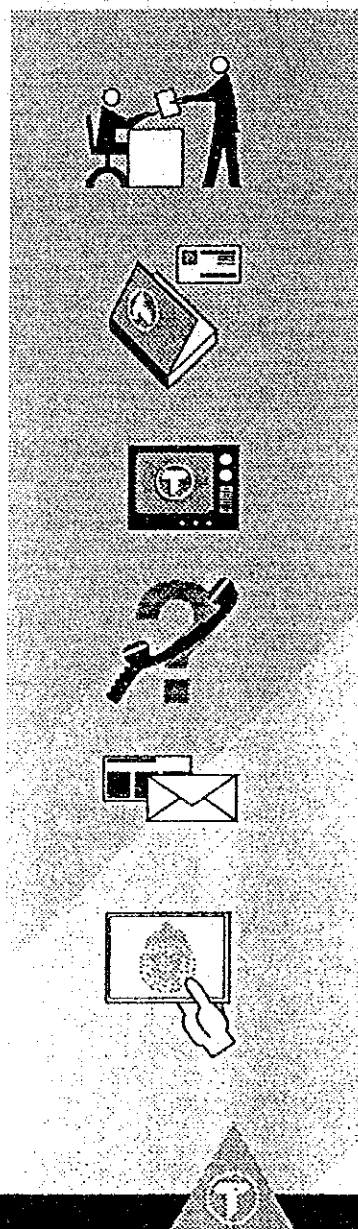
Formación general.



## SISTEMA DE ESTUDIO

El estudiante:

- Acude a alguna de las sedes de TELEDUC para formalizar su matrícula.
- Recibe su carné, texto de estudio y cuaderno del estudiante.
- Lee su texto y observa los programas de televisión.
- Participa en las tutorías académicas.
- Envía sus pruebas, es calificado y recibe comentarios sobre su rendimiento.
- Completado el proceso de evaluación, recibe su diploma de aprobación conferido por la Pontificia Universidad Católica de Chile.

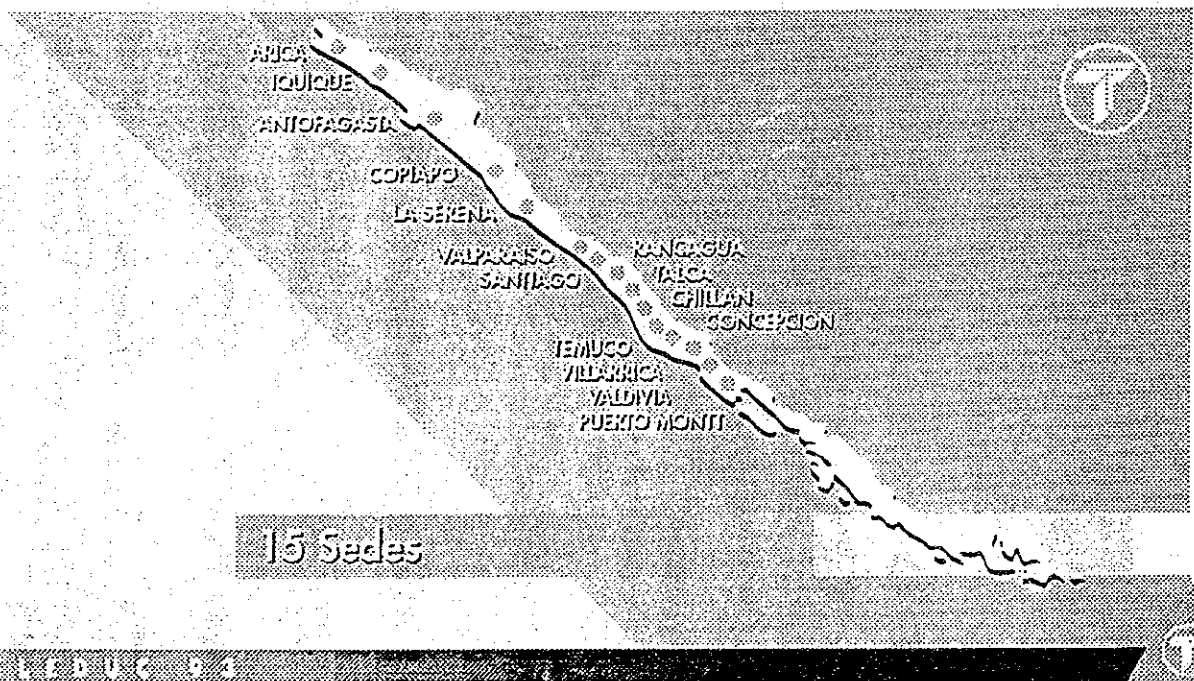


## COBERTURA

Para llevar a cabo su labor, TELEDUC produce actualmente más de 400 minutos semanales de programación que se transmiten de lunes a domingo, a través de la Corporación de Televisión de la Universidad Católica (Canal 13). Esto lo convierte en el espacio educativo de más amplia cobertura en la televisión chilena y uno de los más importantes en Latinoamérica.

Cada año se editan alrededor de seis nuevas publicaciones de carácter educacional, las que se agregan a una colección editorial de más de sesenta títulos, especializados en diferentes materias.

Además, TELEDUC cuenta con quince sedes a lo largo de todo Chile. En ellas es posible acceder a bibliotecas y videotecas, participar en tutorías académicas y tomar contacto con otros estudiantes.



## TRAYECTORIA Y PROYECCIONES

ELEDUC posee una amplia experiencia al servicio de la educación en Chile, acumulada en sus diecisiete años de vida.

En los últimos años, se ha multiplicado la participación de estudiantes, aumentando el impacto de esta modalidad de enseñanza. Las investigaciones realizadas en este campo, muestran una creciente demanda por los cursos ofrecidos y, lo que es aún más importante, una alta satisfacción de los participantes.

TELEDUC es, en la actualidad, un sistema consolidado de educación a distancia que beneficia, año a año, a miles de personas y es reconocido nacional e internacionalmente como un aporte cultural y educativo para toda la sociedad.

La amplia experiencia de TELEDUC en la producción de programas educativos audiovisuales, lo ha hecho acreedor de importantes premios nacionales e internacionales.

### PARTICIPACION DE ALUMNOS EN LOS CURSOS REALIZADOS

